

間のほゞ中央にある。これ等は入湯に可能な温度と湧出量は未知としても、泉源の存在することは想像されるのである。

二 地形・地質上の名勝地

佐津・香住・鎧・餘部・濱坂附近の海岸

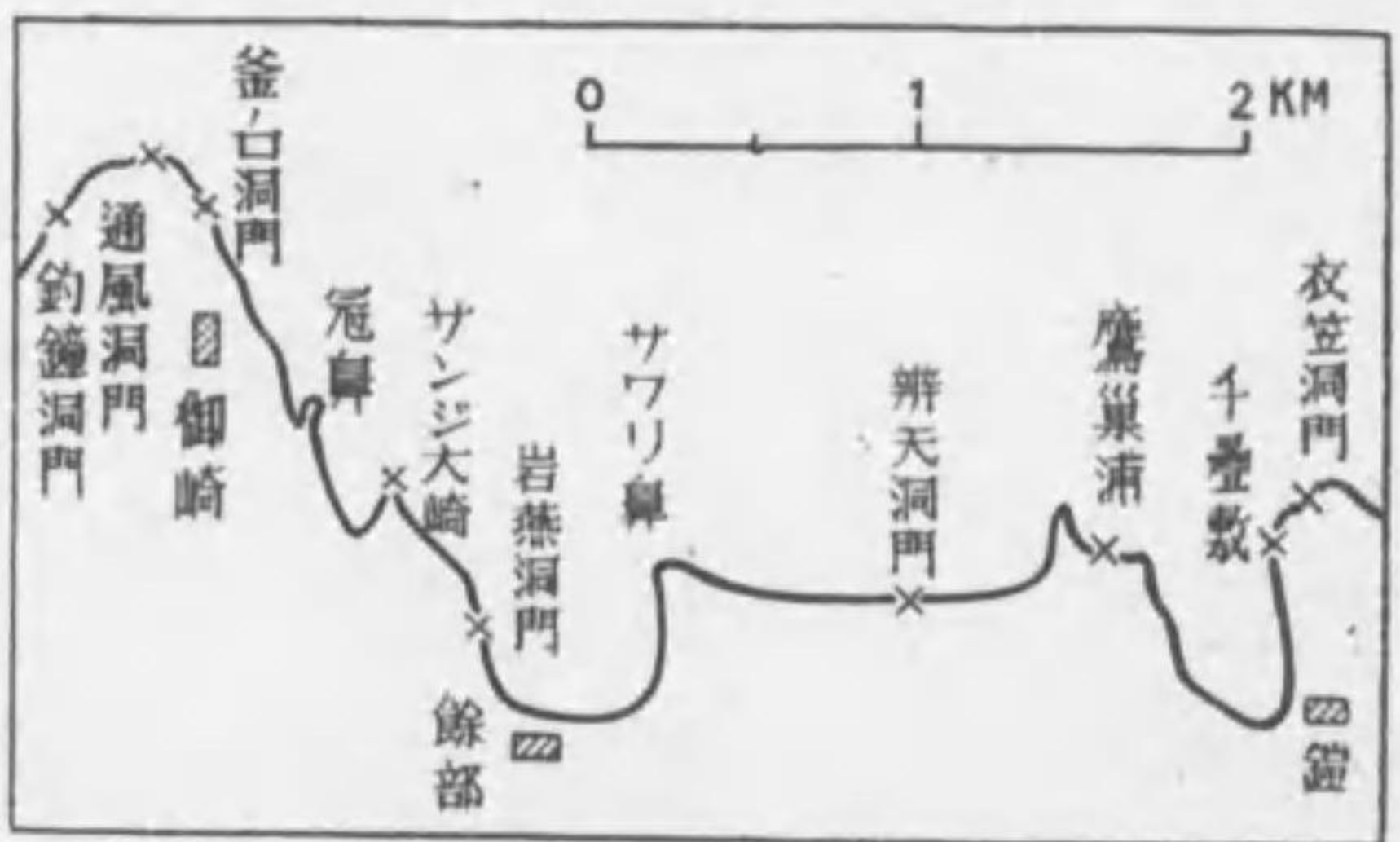
但馬の臨海地方の地質は石英粗面岩・粗面岩・安山岩・玄武岩等の火山岩やその碎屑物よりなる集塊岩・凝灰岩と砂岩・頁岩の第三紀層より構成され又それ等に交錯して花崗岩・石英斑岩・玢岩等の深成岩も露出し、岩石の種類は極めて豊富である。

全般としては沈降性の海岸なるがため、山地が直ちに海に接しそこが不斷の海蝕をうけて、時に海崖を作り又時には崩壊した岩塊が壯觀な荒磯を呈し或は暗礁を各所に伏在せしめてゐる。又岩石の裂罅や硬軟の度に從つて差別的な侵蝕が行はれて到るところに大小形様々な洞窟・洞門を作つてゐる。

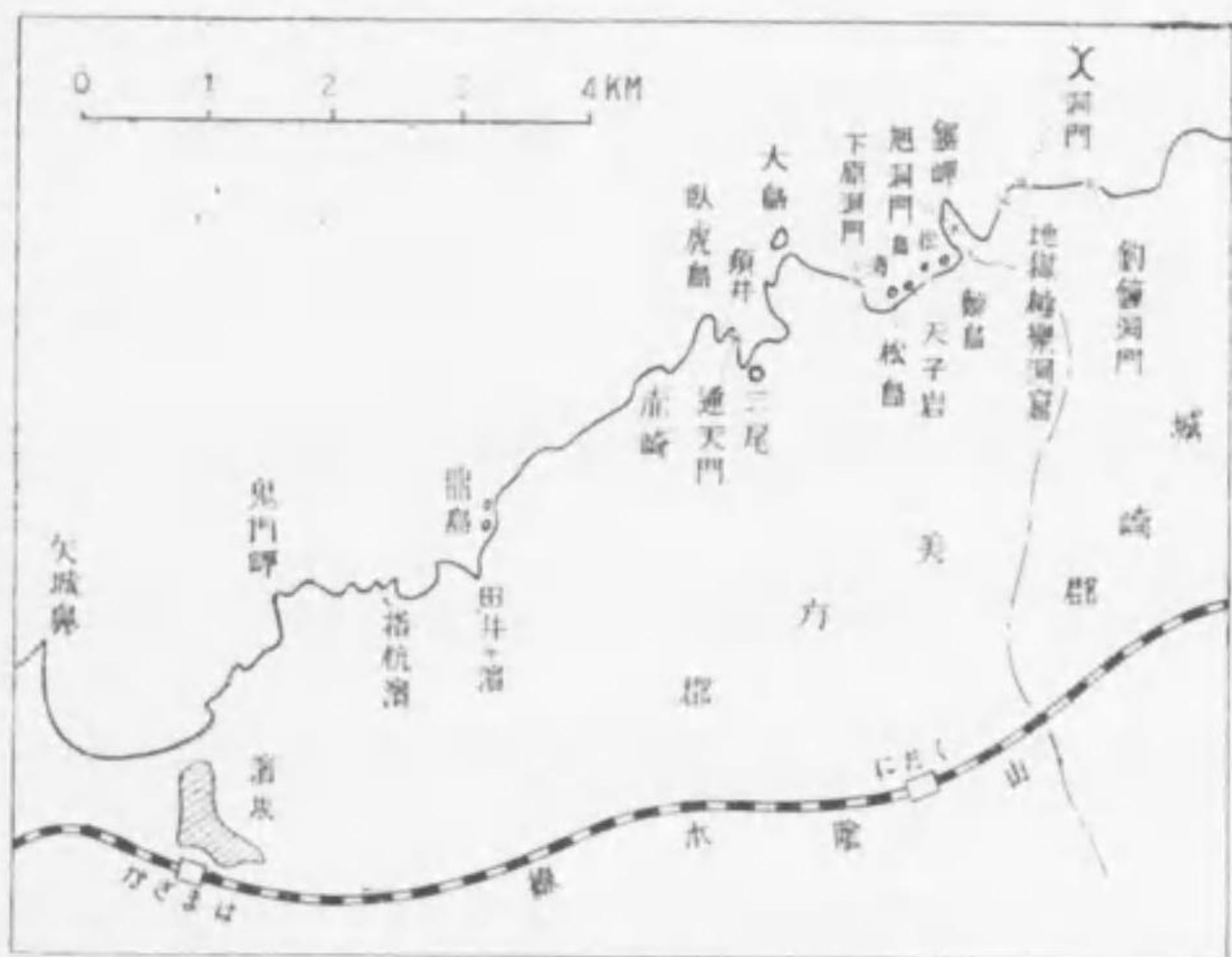
一方隆起海岸や平衡海岸の特色を示す陸繋島は香住の城山(御神島)や竹野の猫崎(加島ともいふ)に認められる。城山は明らかに海蝕臺地の形態を示し、竹野の東方には海蝕段丘と思はれる段丘が存在してゐる。又、鎧灣の千疊敷と呼ばれる砂岩・頁岩の岩盤は隆起海段(Sea bench)であつて、沈降後の隆起を表はしてゐる。

これ等海岸地形中、各種洞門の存在は、近時大いに名勝的價値を發揮し、七八九月の海上波靜かな季節に香住や濱坂から洞門廻りの遊覧船が出る。今船を以て香住から濱坂に至る間に觀察される顯著な洞門について略説して見よう。

衣笠洞門 黒色緻密な輝石安山岩の柱狀節理がみられる。方言にて「カマガ



鎧・餘部附近の海岸



浜坂附近の海岸

「マ」と稱され、入口の高さ八米、幅九米半、奥行は一四八米もある。入口の水深は十米にて、舟を中に入れることが出来る。

荒岩洞門 集塊岩部に出来たものである。

辨天洞門 輝石安山岩よりなる。

岩燕洞門 凝灰礫岩が侵蝕されて出来たもので、洞窟中に岩燕の巢が多いのでこの名稱を得たのである。

釜口洞門 英閃安山岩である。

通風洞門 侵蝕により節理に沿うて崩壊したものの。

釣鐘洞門 最大の洞門にして入口二つあり、何れも高さ十數米に及び、洞内七〇米ほどもあり、鶴が渡來する。

X洞門 含礫砂岩・石英粗面岩よりなりX字狀に侵蝕されたもの。

地獄極楽洞窟 含礫砂岩を貫通せる石英粗面岩がその接觸面より侵蝕されたもので、高さ約二〇米、幅十數米あり、洞中に蝙蝠が多數巢を營んでゐる。

旭洞門 安山岩からなり東西の方向の洞門。

下原洞門 高さ約十米、幅七米ほどあり、その深さ數十米に及ぶ。

通天洞門 入口の高さ十二米、幅二米半、僅かに小舟を通ず。奥行極めて深



釣鐘洞門の奇勝

く、百米餘入れば洞窟の頂上は山腹に通ずる。依つて通天洞門と名づけらる。

これ等の洞門は附近に散在する奇岩孤島と相俟つて絶景を呈してゐる。地質學者脇水鐵五郎博士は最近「濱坂海岸の風景」と題されて天下に秀でた海岸風景であると紹介されてゐる。眞に名勝天念記念物とするに價するものである。

鎧ノ袖断崖

鎧灣口に近く高さ六〇米、最下部の幅二〇〇米の三角形のアルカリ性粗面岩の断崖が七〇度の急斜をなして屹立してゐる。

その白い岩肌には鎧の緘に似た節理を示してゐる。これは柱状節理を作つた粗面岩の水平節理（約十五條ほどある）に岩脈



蜂巣の岩の奇観

が進入したもので、火山岩の噴出様式としては實に珍奇なものであつて地質學上、「鎧ノ袖節理」と稱される。規模の大きいことから早くから天然記念物に推されてゐる。

蜂巢島及び鷹巢島は鎧ノ袖の前面にあり全島粗面岩の柱状節理を現はし、大小の石柱が簇立する様は實に奇観である。濱坂町三尾にある大島は全島曹達粗面岩の柱状節理を現はし里人は誤つて玄武岩と稱してゐる。孔雀洞窟は鷹巢島に相對し、鎧ノ袖と同じく粗面岩よりなり、鎧の袖節理をなす。鎧ノ



孔雀洞窟門

袖節理をなす岩體が側壓力をうけて弓形に彎曲した珍しい機構をもつ洞門で

ある。外見したところ、孔雀の美しい羽毛を擴げたやうであるからかく名付けられた。

釣鐘洞門と共に但馬海岸の二大記念物として保護すべきものである。



釣鐘の窟

或は龜甲紋を作つてゐる。北但地震の際、崩壞して洞門は可成變形した。

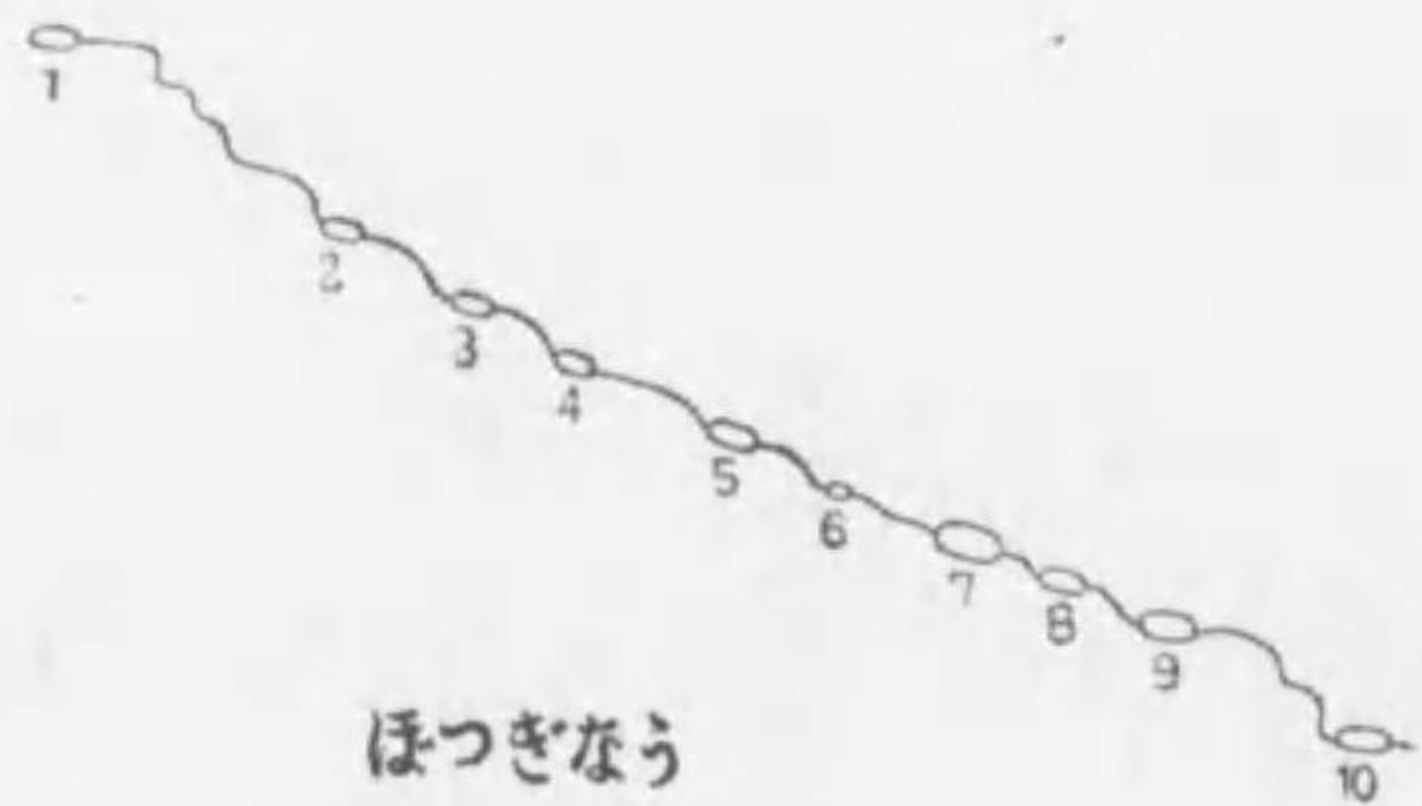
玄武洞 城崎郡田鶴野村赤石にある玄武岩は玄武洞の名において夙に知られてゐる。玄武は龜の意にして柴野栗山に依つて命名されたものである。我が國の玄武岩中、最も普通の橄欖玄武岩に屬する。四角から八角までの石柱をなし厚さは十五糎乃至二十五糎が普通である。洞窟は天井が蜂窩狀をなし

青龍洞は玄武洞の南方に接し、玄武岩の柱狀節理が褶曲作用のため斜に傾き壯觀を呈してゐる。これは十數年前採石の結果生じたものである。

岡壺・うなぎ壺(甌穴)

餘部村市午即ち餘部の陸橋から南二軒半の小溪中に大小二箇の甌穴が八米ほど距ててある。下流の大きいものは俗に岡壺といはれ、長徑六・四米、短徑三・七米のほぼ圓形をなし、深さは最大二・五米ある。小さい方は圓形で直徑一・八米、最深箇所〇・七米あり。なほその上流に極めて小さい甌穴が四箇許りある。

更に上流に至ると百米の距離に十箇の甌穴があつて、その大いさは一般は岡壺よりも大きい。たゞ惜しいことには、壺は全部石・礫・砂にて埋められその深さは測定し得ぬ。交通不便の地なるため一般



に知られてゐないが、河川上流の侵蝕の特例を示すかくも大きい陥穴が澤山あることは地文學上特記すべきことである。

≡ 北 但 地 震

往古から但馬は地震の無い地方といはれてゐた。少くとも記録上では全国的に地震の稀な地方といへる。

左表は地震研究の權威として有名な故大森房太郎博士の日本大地震概表に於ける山陰地方の地震である。

福井以西の主なる地震

一、元慶四年十月十四日	皇紀一五四〇年	出雲 大地震	右
二、正嘉元年(春)	同 一九一七年	對 島 地 震	
三、寶徳元年(夏)	同 二二〇九年	同	右

四、寛文十年八月十五日	同 二三三〇年	同	右
五、延寶四年六月二日	同 二三三六年	石見津和野地震	
六、貞享二年九月十日	同 二三四五年	防 長 地 震	
七、元祿十三年二月二十七日	同 二三六〇年	對 島 地 震	
八、正徳元年二月一日	同 二三七一年	美作因幡伯耆大地震	
九、明治五年二月六日	同 二五三二年	濱 田 大 地 震	
一〇、明治三十一年八月十日及十二日	同 二五五八年	筑前糸島郡大地震	
一一、明治三十七年六月六日	同 二五六四年	出雲宍道湖附近地震	

然し日本海地震帯に屬する但馬地方に特に地震を否定すべき確たる理由がないから記録上大地震がなかつたことは、將來を保證することにはならない。果して大正十四年五月二十三日午前十一時十分頃、圓山川河口附近を中心にして破壊的な地震が突發した。其の震域は狭少であつたけれども地震の強さに於ては近來稀なるものであつた。その震害區域は殆ど豊岡以北の圓山川沿岸の北但地方に限られてゐるから、北但地震と呼ばれてゐる。

北但地震被害統計

城崎署管内

	戸数	人口	倒壊	焼失	死亡	負傷	行方不明
城崎町	660	3629	124	536	164	63	49
津居山	242	1278	108	34	22	36	3
瀬戸	29	600	92	2	4	30	—
小島	84	383	44	—	1	—	—
氣比	173	1270	170	3	8	16	—
田結	75	553	75	—	7	37	—
畑上	65	360	60	—	—	3	—
三原	78	174	27	—	—	4	—
内川村	60	305	33	27	9	19	—
飯谷	19	100	2	—	2	2	—
樂結	17	85	1	—	—	—	—
上野	93	500	1	—	—	—	—
來日	83	415	1	—	—	—	—
竹野	450	2300	17	—	—	3	—
計	2128	11952	755	602	217	213	52

豊岡署管内

	戸数	人口	倒壊	焼失	死亡	負傷	行方不明
豊岡	2113	10700	529	1583	83	232	17
五野	692	3560	45	—	2	12	—
田鶴	484	2512	33	—	3	14	—
新田	491	1861	48	—	1	6	—
八條	368	1924	35	—	2	—	—
三江	448	2489	25	—	—	15	—
計	4596	23046	715	1583	91	279	17

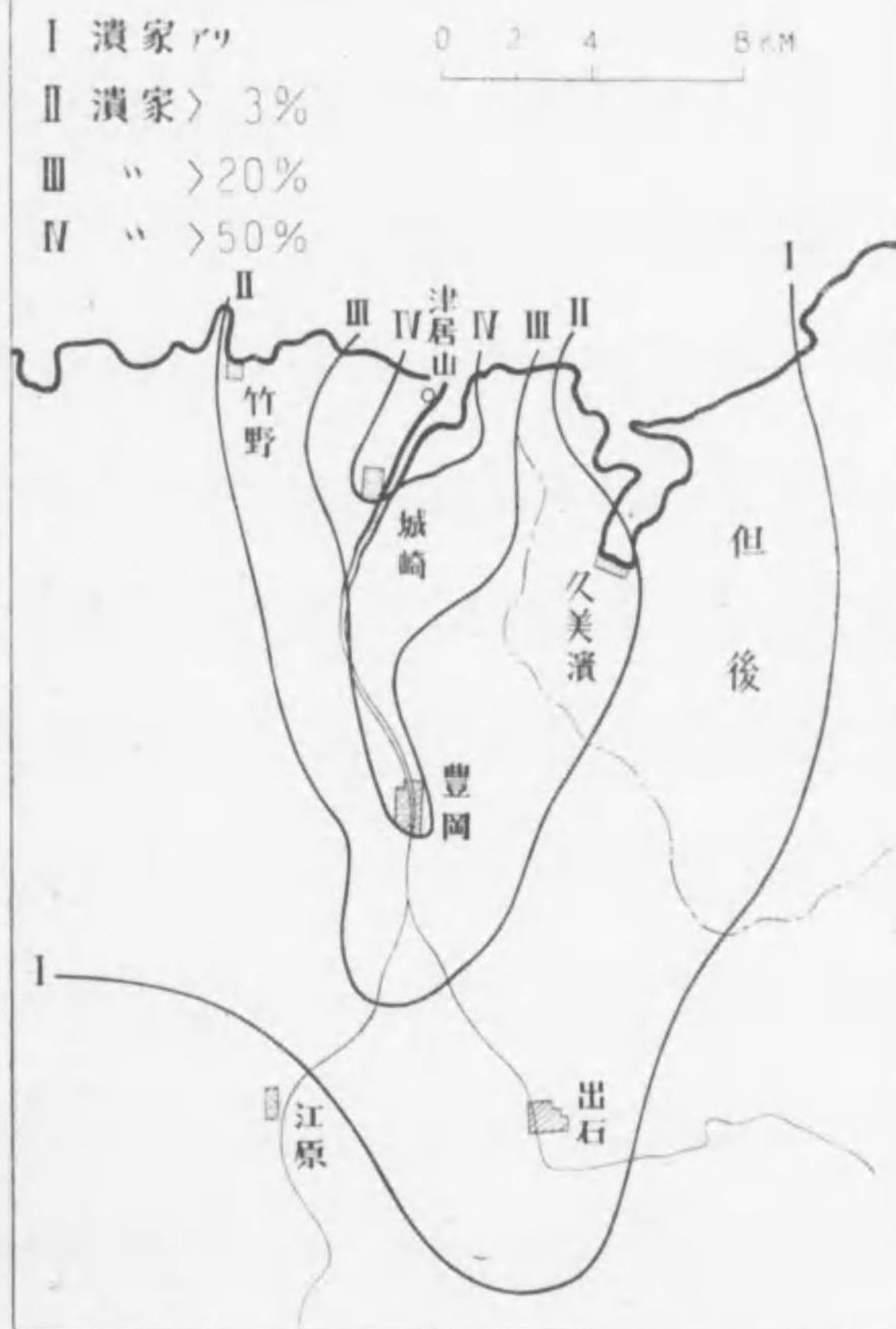
出石署管内

	戸数	人口	倒壊
室小	729	3493	1
埴坂	409	2204	5
神美	849	4226	2
出石	1133	4923	13
計	3120	14846	21

京都府熊野郡

	死者	傷者	全潰	半潰
久美濱	7	50	50	150
上佐濃	1	—	—	—
湊	—	—	6	—
神野	—	—	3	1
計	8	50	59	150

北但地震々度分佈





豊岡町の震災直後

北但地震は四山川河口の地下約五・六十軒の深所に起つた地這りが震源で、地震の種類では構造性地震と稱されるものである。全国に於ける此の地震の有感覺區域は相當に廣かつた。これは震源が深かつたためである。烈震區域の狭かつたのは震源の容積の小さかつたことと震央附近に二・三百米以上の丘陵性の山が多いことに因る。地震計の記録するところでは津居山附近で加速度二千三百耗毎秒震幅は二十五乃至三十耗で、豊岡では加速度千四百耗毎秒震幅二十耗であつた。これを關東地震の加速度四千五百耗毎秒震幅七十耗に比すればずつと小さい地震といへる。

然し四山川流域地方に被害が特に甚しかつたのは、津居山・城崎・豊岡一帯の聚落が皆新しい沖積層上にあつたからである。且つその兩岸は東は第三紀層であり、西は石英粗面岩・安山岩・玄武岩など何れも比較的固い地盤から成立つてゐるので、此の固い地層にとりかこまれた四山川沿岸の沖積地は所謂表面定常波の状態におかれたので實際以上に大きい波動を感じたのである。

地震に伴ふ地割れや山崩れでは左程顯著なものになつた。道路に小龜裂が多數出來たことと、田結の東北丘陵上に稍、著しい地割れを生じたことである。



豊岡原野と化粧城崎町

海震も生じたけれども難波船を

出すほどでなかつた。

地震の被害としては直接震動のため倒壊破損したよりも、火災の方が遙かに多かつたことは前掲の統計に依つて知る通りである。温泉聚落城崎や柁柳工業都市豊岡の焦土と化した姿を見た當時はその再興さへ危まれたほどであつた。

北但地震の餘燼が未だ冷めきらぬ昭和二年三月七日午後六時二十八分、但馬に近い京都府丹後地方を震央として起つた地震は、強さ・大いさに於ては但馬のそれに倍するものであつた。近接した地域だつたので但馬でも強く震動を感じた。この地震では可成り顯著な斷層を生じた。被害の最大だつた峰山を始めとして丹後の諸町村は、震災後多くは耐震家屋を建設して將來に備へてゐる。

○明治以來死者百名以上を出した地震の統計

地名	死者	傷者	全壊	半壊	全焼	半焼
濱田地震(明治五年二月六日)	五七		四〇四九	八〇三四		
濃美地震(明治二十四年十月二十八日)	七・七七	一七・一七五	一四三・一七七	二・三九七		
庄内地震(明治二十七年十月二十二日)	七三六	九七七	三・八五六	二・三九七	二・二四八	
三陸大津波(明治二十九年六月十五日)	二七・二三	九・四七	(流失)	二・四五六		
陸羽地震(明治二十九年八月三十一日)	三〇九	七七九	五・八七九	三・〇八五		
嘉義地震(明治三十七年十一月六日)	一四五	一五六	六九〇	一・二〇六		
嘉義地震(明治三十九年三月十七日)	一・五六	六・七六九	六・七六九			
關東地震(大正十二年九月一日)	九・四七四	一〇三・九六一	一〇五・五三四	一〇八・九七三	二七五・八五五	七七七
北但地震(大正十四年五月二十三日)	六八	六八一	九七〇	九五九	二・一六〇	三〇
丹後地震(昭和二年三月七日)	二・三七四	六・七三四	二・六三三	一〇六	二・九八八	二・六四八

第四 但馬の氣候

日本海に面する但馬は、裏日本式氣候である。今、氣象要素の中、第一に氣温から検討してみよう。

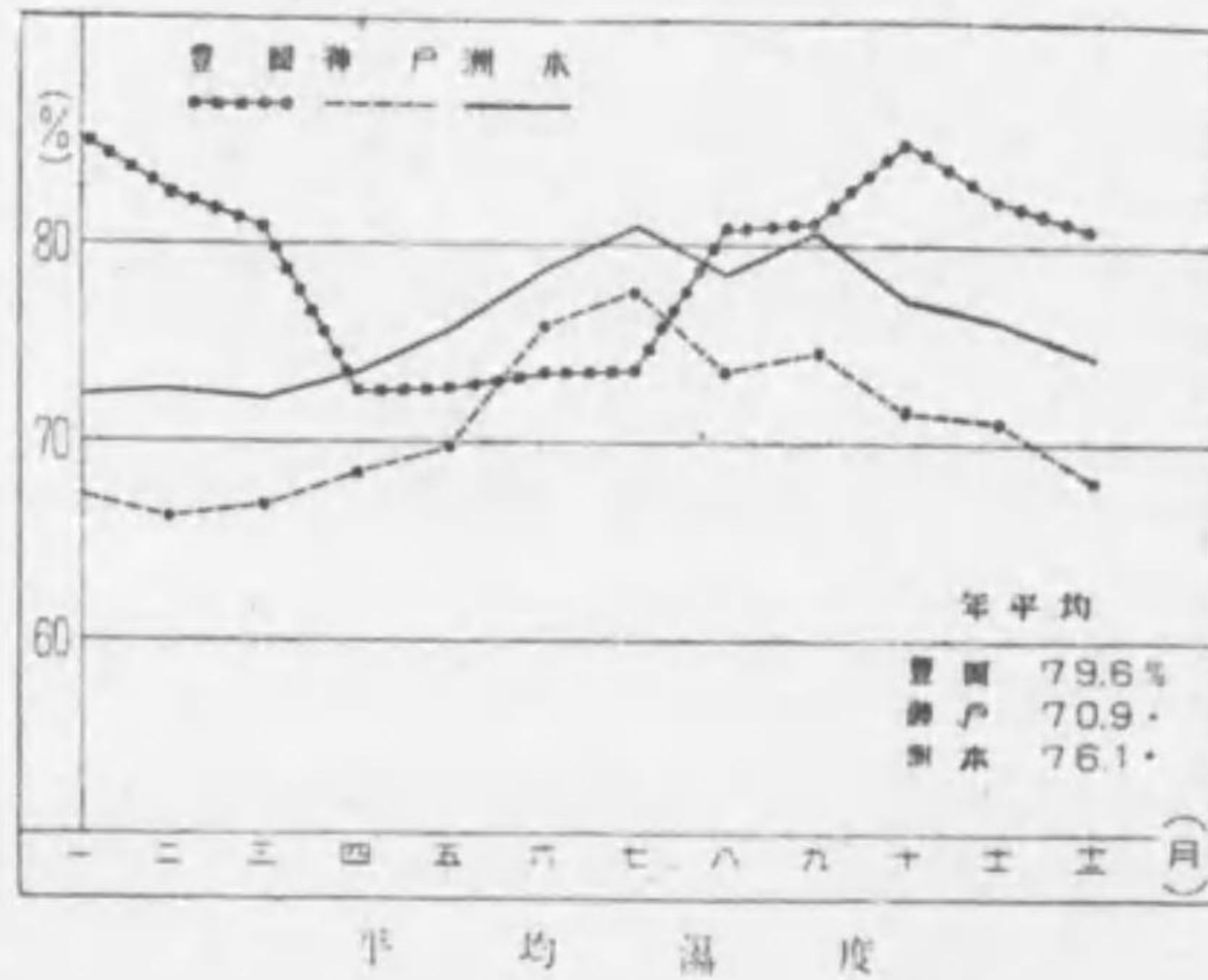
氣 溫 表 (明治三十一年ヨリ昭和八年マデノ平均)

月	豊 岡	村 岡	濱 坂	香 住	神 戸	洲 本
1	2.9°C	2.0°C	3.9°C	4.5°C	4.7°C	5.1°C
2	3.0	2.0	3.6	4.2	4.8	5.0
3	6.0	5.1	6.5	7.1	7.6	7.7
4	12.1	11.4	11.7	12.8	13.5	13.5
5	16.5	15.9	15.9	17.1	17.9	17.9
6	21.0	20.0	20.2	21.2	21.9	22.0
7	25.8	24.4	24.7	25.9	26.2	26.3
8	26.6	25.3	25.4	27.0	27.6	27.5
9	22.2	20.9	21.8	22.7	23.8	23.9
10	15.8	14.6	16.0	17.1	17.8	17.9
11	10.2	9.1	11.0	12.1	12.2	12.7
12	5.4	4.4	6.2	7.0	7.2	7.7
平均	14.0	12.9	13.9	14.9	15.4	15.6

氣溫表にて知られるやうに、豊岡盆地では夏の氣溫は可成り高く、表日本に屬する神戸や洲本と比較して殆ど差異がない。しかるに、冬は後者に比して遙かに低溫である。之を城崎郡の西部山地や美方郡の山地に比較すると、山地では夏も冬も一般に氣溫が低く、盆地では高溫である。豊岡・出石・八鹿・和田山が、やゝ内陸性で、氣溫の較差が割合に大きいのに對して、香住・

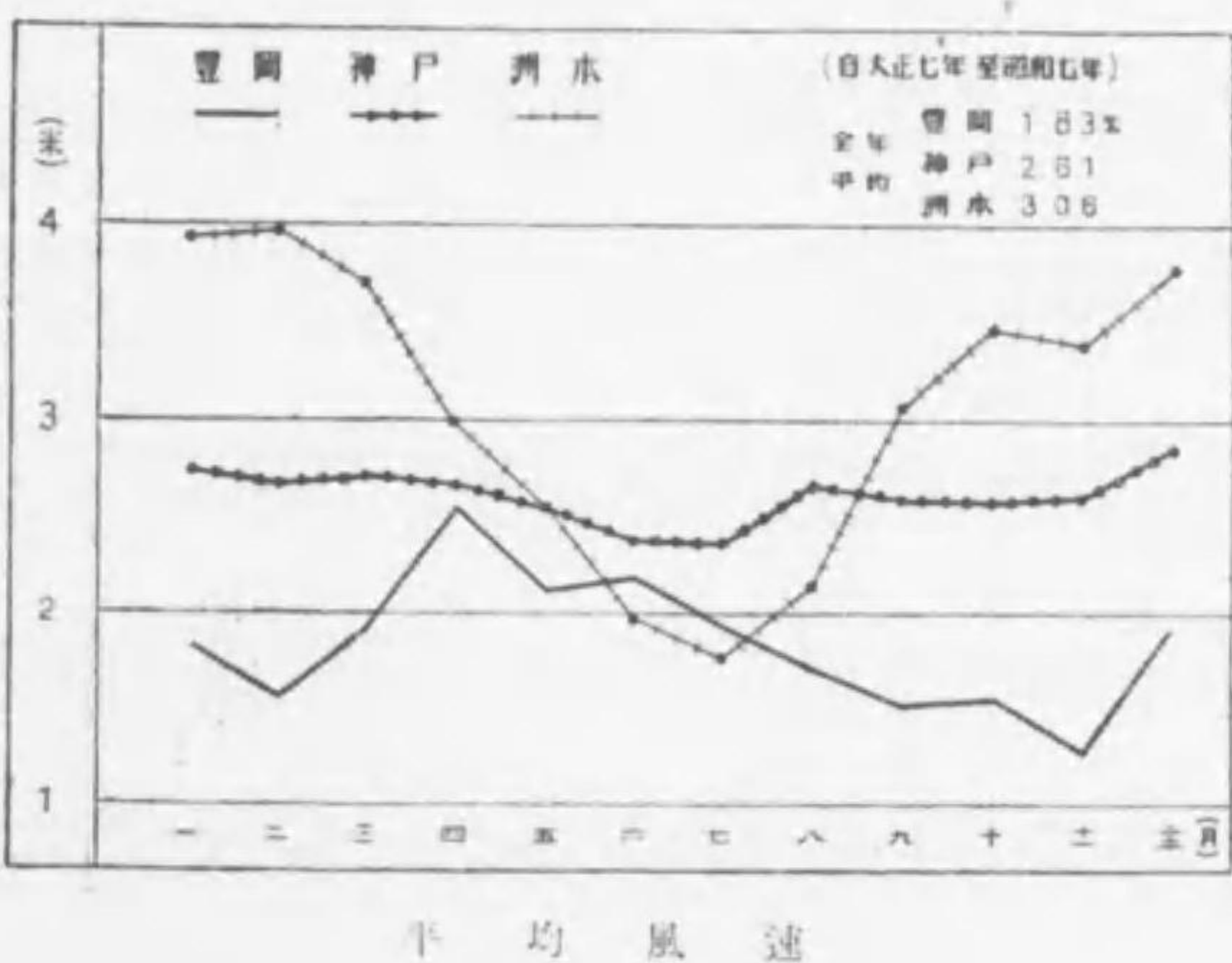
濱坂等の海岸地方は、冬の氣溫が他地方に比して著しく高いために、較差が小となつてゐて、微少ではあるが海の氣溫緩和作用が認められる。

氣溫の高低が我々に暑さ寒さを感じしめるには、その時の大氣の性質や状態が大いに關係する。中でもその時の大氣の湿度の大小に支配されることがなかな／＼大きい。従つて寒暖計に表はれた甲乙二地の同氣溫が、同じ寒さ暖さを我々に感ぜしめるとは限られぬ。たとへ同じ氣溫であつても湿度が大きければ、夏は暑さを強く感じ、冬は暖いのである。反對に湿度が小であれば、夏は冷しく、冬の寒さが大きい。



風向と風速

この理由から冬濕潤な西北季節風が吹き込む但馬では、氣温が大阪・神戸等より低いにもかゝらず、暖い冬を経験し夏は梅雨の現象があまり顯著にあらはれないから割合に凌ぎ良いのである。風は一般に弱い。風速表にあらはれてゐるやうに、豊岡測候所にて觀測された年平均風速二米は、神戸や洲本に於けるものより一米も小さい。之は我々の経験と一致するところである。殊に後者と比較して著しい違ひのあるのは、寒季に風の弱いことである。このために冬季降雪が多いにも拘はらず、他地方の人人が想像してゐるほど但馬の冬は寒くない。



雪こそ降り、木枯吹きすさぶとか、北風寒きといふ日は餘りないのである。風には季節風帯の特徴があらはれて、

暖季には南風又は南々東が多く、寒季には北又は北西の風が卓越する。中でも北西の風が一年中で最も多く吹き、最大風の方向は、圖のやうに著しく北西に突起する。この冬の北西季節風が、但馬に多量の雨雪をもたらすのである。この地方で俗に「うらにし」と呼ばれる風がこの北西風に相當し、この「うらにし」の頃は全く晴雨不定の天氣状態をあらはす。南風と北風即ち季節風の交替期は毎年八月末から九月下旬にかけてであつて、次の交替期の三月初

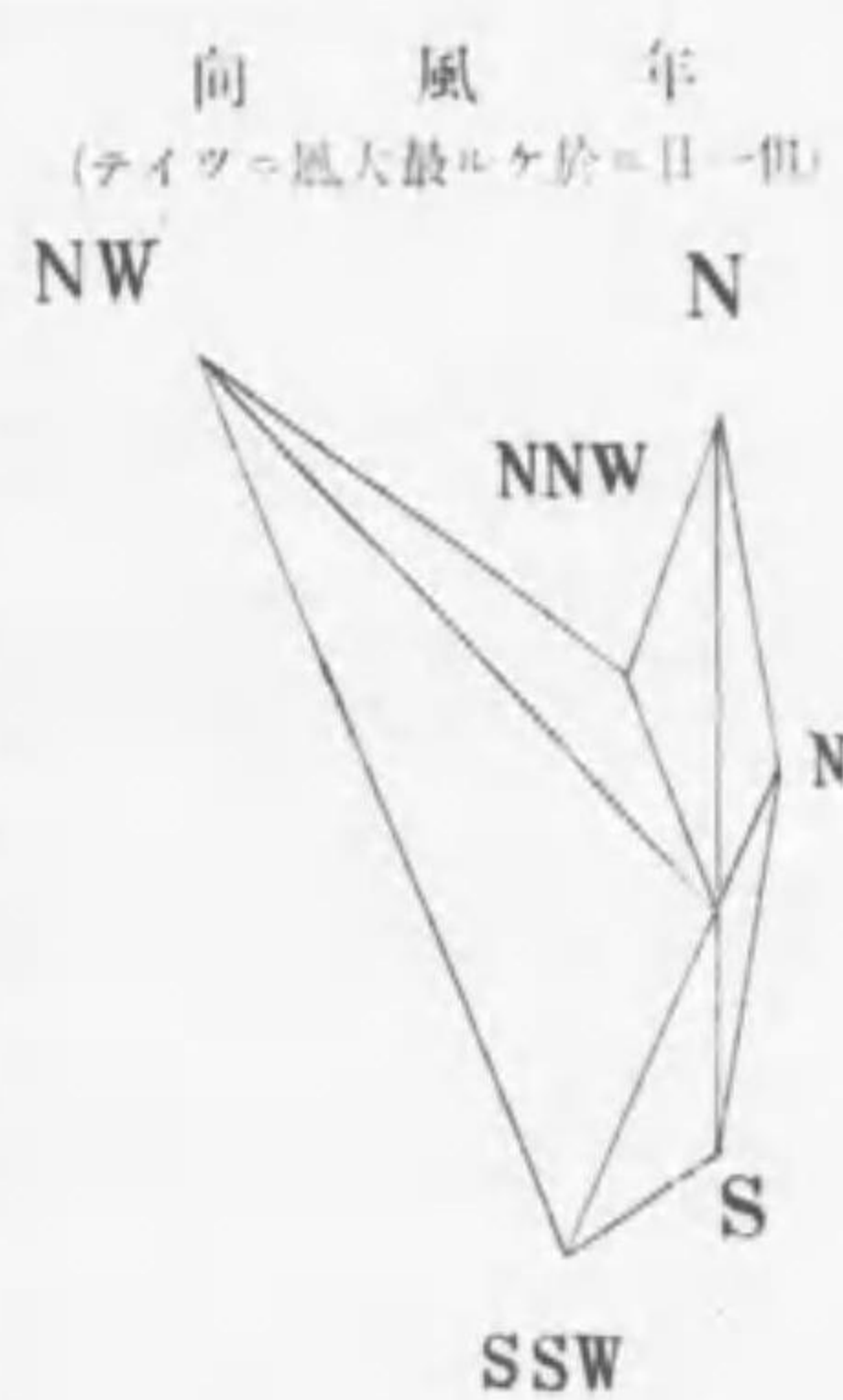


昭和十年の大雪と豊岡町

の交替期は毎年八月末から九月下旬にかけてであつて、次の交替期の三月初

旬に至るまでは毎年降り続く雨と雪とに住民が最も患はされるのである。

降水量の時間的分布状態は風向に支配されることが多い。今、降水量を神戸や洲本の如き表兵庫と但馬の各地とを比較すると、前者は風が太平洋方向から吹き込む暖季が雨期で、寒期は降



水量が少ない。但馬ではこれと全く反対である。グラフに表現された結果、兩者の間には凸型・凹型の截然たる相違を作つてゐる。但馬では冬の降水量の大半は雪の形で降る。言ふまでもなく

但馬の大部分は裏日本式の冬季多雨帯である。

降雪量は山高く谷深い美方郡の山地や城崎郡の西部山地及び出石郡の東部に多く、これ等は我が國でも顯著な深雪地帯である。然し四山川の南方では降雪量が著しく減少し、和田山以南と江原以北とは同じ但馬と雖も冬季の

降水量の表 (明治三十一年ヨリ昭和八年マデノ平均)

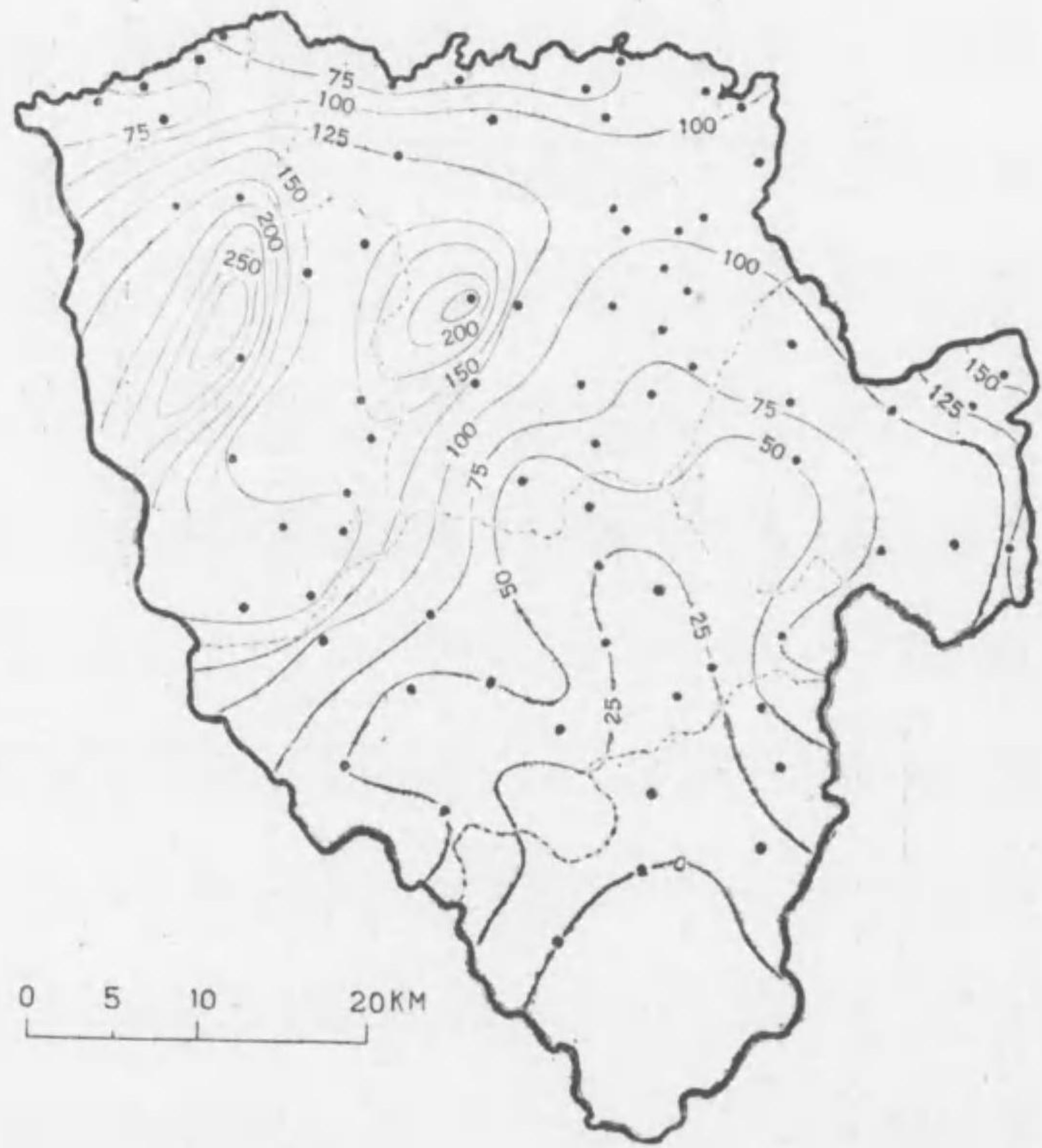
月	豊岡	和田山	香住	村岡	神戸	洲本
一月	235.4	110.6	300.0	266.9	46.0	46.9
二月	185.7	110.8	220.0	236.9	55.7	68.2
三月	142.8	121.7	173.0	206.4	88.1	104.7
四月	111.3	115.3	129.2	134.6	126.2	124.5
五月	97.6	100.8	101.5	115.0	119.6	127.9
六月	146.4	166.1	142.0	173.4	200.3	195.0
七月	131.1	158.8	123.1	193.1	150.7	145.4
八月	143.3	152.9	144.1	172.1	120.4	140.0
九月	226.3	209.1	229.0	273.6	181.8	221.9
十月	173.7	139.5	214.1	208.8	124.9	152.8
十一月	153.4	89.9	225.4	178.3	71.6	93.0
十二月	227.6	114.8	327.2	246.5	49.3	59.7
平均	1974.5	1590.4	2328.6	2706.0	1331.6	1480.0

雨雪量が全く相対比される二地方の如き観がある。これは水蒸氣の供給地なる海との距離や山地の高低並にその配布の状態如何に依るためであつて、一般に海近く南方に高き山地の障壁を控へたる谷間に於て極大となる。

近年稀なる昭和十年冬の大雪に於て、かやうな條件を具備したる城崎では一般民家が屋根の除雪を五六度行つたに對し豊岡では平均三四度の程

但馬の積雪量分布圖

(昭和九年三月上旬)
数字の單位は厘米



る人は生野に、山陰では福知山に近き頃天地一變し、

心も晴れやかな青空に

進し播但線で乗換へす

窓外に展がり、更に南

なかつた四圍の山々が

りとなり、今まで見え

て間もなく雪は斑ら降

んだのに、和田山を經

降りしきる雪の中を進

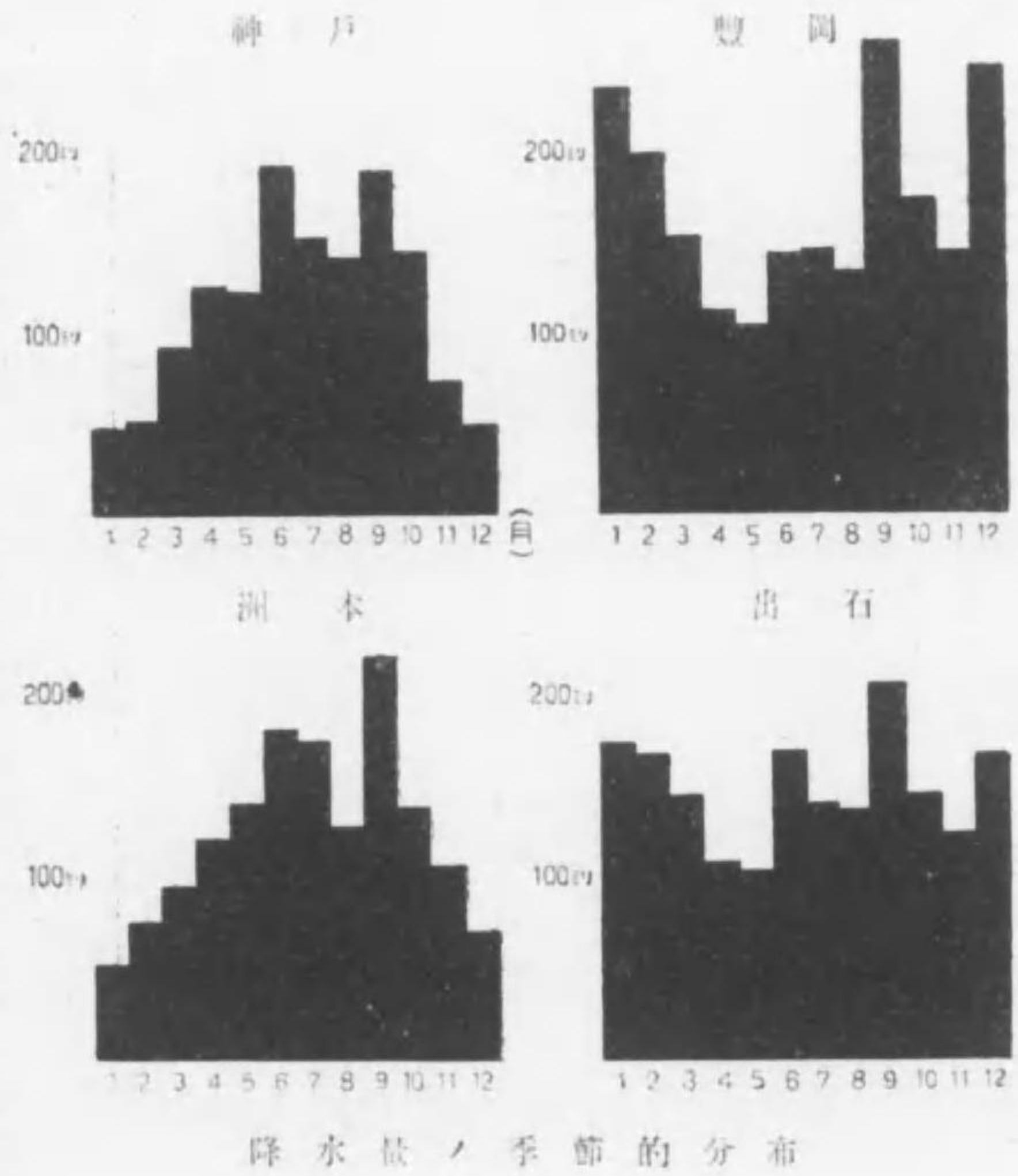
機關車が音も凄まじく

經過する頃、ラッセル

海地方から豊岡江原を

旅する人は、但馬の臨

度であつた。これは昭和十年にのみ限らぬことである。冬季、山陰線を以て



降水量ノ季節的分布

晴天・曇天日數・日照時間

麥の緑が映えてゐるのを見るであらう。

全年に於ける曇天日數(逆に晴天日數)・降雨日數及び霜を生じた日數や日照時間についても

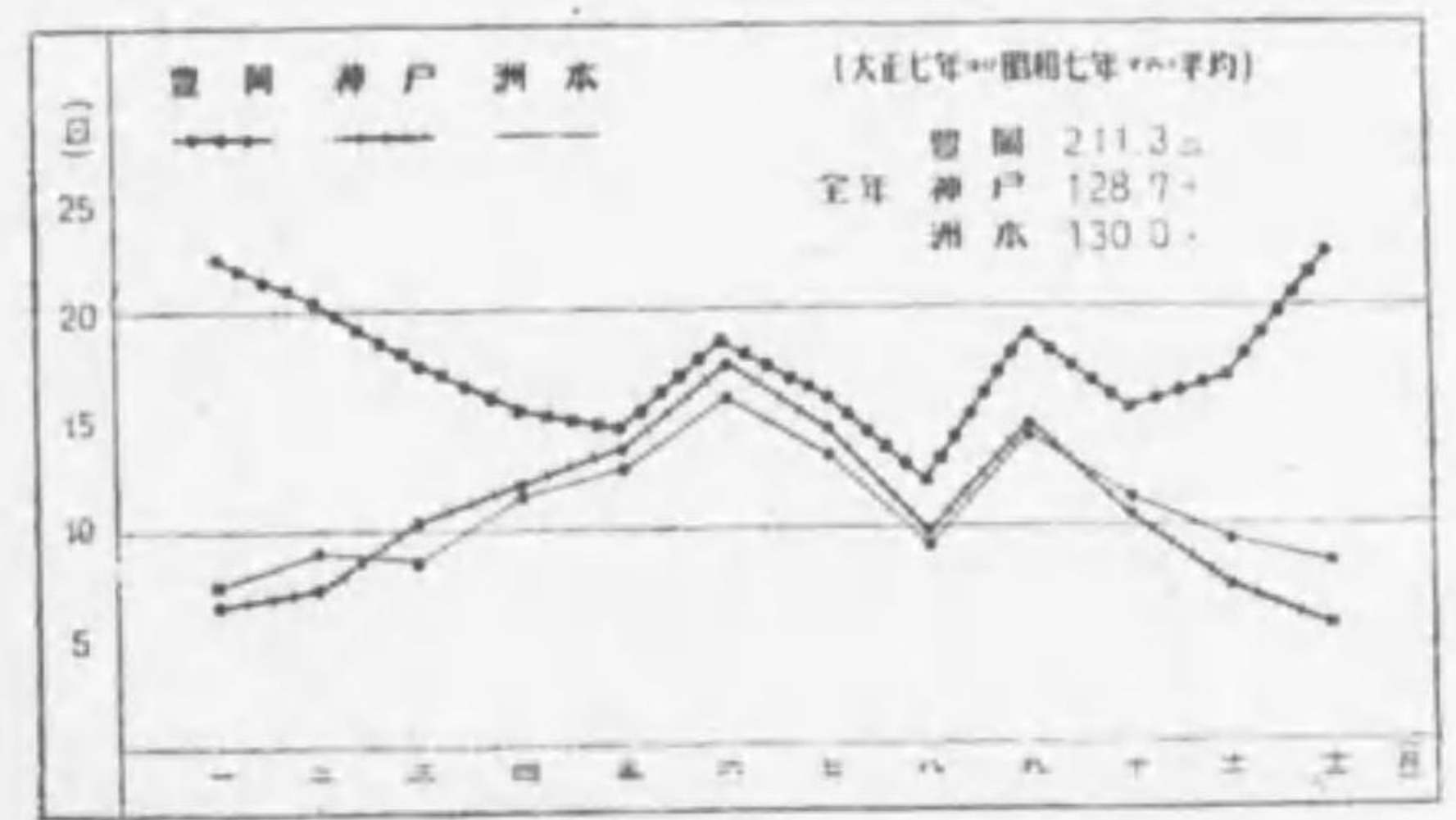
	神戸平均 (1897-1931)	豊岡 (1918-1931)
晴天	36.8	10.3
曇天	128.5	210.1
雨雪霧霜	141.5	221.2
霜	21.0	50.6
霧	7.9	95.0
雪	45.1	32.7

(數字ハ日數ヲ表ハス)

表日本と大いなる相違がある。掲載された統計圖表に依つて比較されよ。日照時間の少いことも、氣候上、表日本と裏日本と

(等日照時間線圖を参照せよ)

日照時間の如何は、我々の保健や病氣治療に極めて重要な太陽光線中の紫



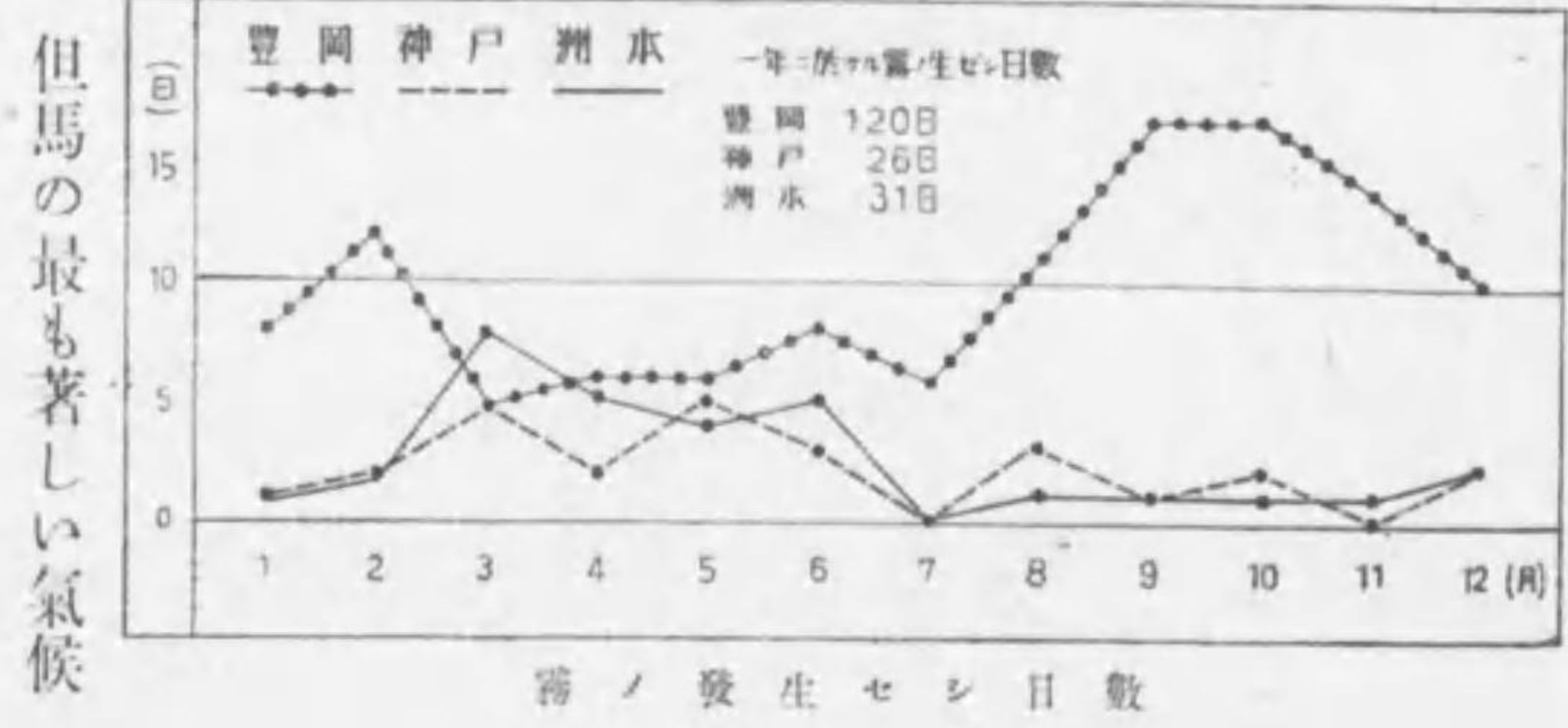
曇天日數

霧

外線と關係が深く、實驗された結果によれば、豊岡では冬季三ヶ月即ち十一月・十二月・一月に於て、紫外線の量が神戸・洲本等に比して著しく少く、且つ午後に於て其の量が急減する特徴を有してゐる。

一般に四季を通じて湿度が大で、八十八パーセント以上を占め内地に於ける最高湿度地域の一である。又霧の多いのは豊岡盆地の特色で夏から秋冬の交りにかけて特に多く發生する。低い朝霧の濃くたれこめた中に靜かに明け行く朝景色は、なか／＼味はひのあるものだが、保健衛生の上からは留意すべき現象である。

以上述べたやうに、溫和なる氣温・弱き風・多量なる雨雪・少量なる日照と多濕なる大氣の性質等は、



霧ノ發生セシ日數

等日照時間線圖 (數字ハ一年ニ於ケル時間)



上の特徴でこれが後述せんとする各種の産業・居住・人口現象に甚だ大きい影響を及ぼすのである。

第五 生物界

暖温帯區に屬する但馬地方の生物界は、降雪が多いといふ特殊の氣候的環境をもつにもかゝはらず、山陽方面とさほど大きい相違は認められぬ。殊に動物分布に於てさうである。たゞ葡萄・蜜柑の如き果樹や茶のやうな栽培植物は大きい需要地に遠いといふ經濟上の不利だけでなく、自然的條件に於て確かに不利な點がある。その産額の上からみた分布状態については、城崎郡の西部や美方郡に於て多少山地の多い地方としての特色がある。

妙見嶽の山腹に生育する所謂妙見杉は、秋田杉や隠岐杉ほど著名でないが、極端に幹の下方の太い形態は雪に對して甚だ頑丈であつて、植物の氣候順應を示してゐる。天井の張板や柱等の建築用材として優秀なので、價が高いに

生物區

植物界

妙見杉

もかゝはらず大變珍重がられてゐる。従つて古くから他地方に移出された。

妙見嶽山腹の名草神社の境内にある三重の古塔は、往昔出雲大社の改築に際し、こゝから杉を提供した時の返禮であると傳へられる。杉は松などと異なり好濕性があつて、一脈の山地に於ても北側に良く育つから湿度の高い氣候をもつた但馬には相應しい植物である。

その他自生植物にはこの地方に特異なものは少いやうである。しかし古木・大木として、又生物學上保存すべき珍種の存在は近年次第に報告されてゐるのでこれ等について概略を述べよう。



妙見杉と三重塔

妙見大杉

養父郡八鹿町石原縣社名草神社の境内にある杉は、その大いさ根元の周囲一三・五米もあり樹齡は不明だが西北側に洞口高さ一・二米、幅〇・六米、奥行三・三米、高さ四・二米の空洞を生じてゐることから考へても随分の古木である。杉の巨樹として全國有数のもので、神木と見做されるのは當然である。大正十三年十二月九日に天然記念物に指定された。

八代の大樺

三米あり、その高さは二十八米に近い巨木である。山形縣北村山郡東根村小學校内にあるもの。次いで本邦第二の大樺であつて、此の地方の人は之を靈木として畏敬し又保護を加へて今日に及んでゐる。昭和三年三月二十四日に天然記念物に指定された。



朝來郡生野町口銀谷延應寺境内にある。根元の周囲八・五米、樹高三〇米に及ぶ。地上六米程

樽見の仙櫻

にて幹は二本に分れ、心材は殆ど空洞である。樹齡凡そ千年と稱さる。枯枝が時に落下して危険なことがある。

養父郡口大屋村樽見の桑園中にあり、縣下最大の櫻樹である。白彼岸に屬する。地上二米餘にて數幹に分れる。枝に枯死せる部分多く樹勢衰ふ。地上一米半に於て、幹圍が五米、樹高約二十米。但馬考に「此樹最も盛んなりしは元祿前後にして當時高さ五丈」とある。

玉林寺の垂櫻

朝來郡與布土村與布土大谷玉林寺内にあり、垂櫻として縣下第一のものである。樹齡古く樹勢が衰へてゐる。地上一米半に於ける幹の周圍が三・六米、樹高が十米ほどある。

正福寺の櫻

美方郡温泉町正福寺境内にあり、根元の周圍一・七米、樹高六米に及ぶ。枝は半枝垂である。山櫻・毛山櫻・染井吉野・彼岸櫻の孰れにも似てゐるところのある珍しい老櫻で、昭和九年牧野富太郎博士によりて正福寺櫻の和名が與へられた。果實と葉とを調査の上、山櫻と彼岸櫻の中間のものなりと斷定され學名 (*Prunus Tajimensis Makino*) と命名された。後に美方郡神坂小學校庭にも三株ありと判つた。山陰一帯にあるものか尙不明である。

朝來山の櫻

竹田驛の東南二軒、朝來山麓に七十一町歩に亘つて多數の山櫻の老樹がある。其の數は二千本以上もあらう。老幹古木の密生するところを名づけて東千本・立雲峽といふ。竹田城より眺望するため古く城主によつて植ゑられたと傳へてゐる。

山櫻は花と葉が同時にあり頗る優美にして詩的情操に富んだ櫻である。近時價の低廉と繁殖の

容易さのため俗惡な染井吉野が全國に次第に蔓延せんとしてゐるのに反し、山櫻は漸次減少の一路を辿りつゝある。此の意味から優雅な姿をもつた山櫻は保存せねばならぬ。竹田保勝會は此の方面の仕事に盡力してゐる。

美方郡村岡町と兎塚村に跨る瀨川山山麓の高さ五〇〇米乃至五五〇米、傾斜十度内外の地に三〇〇町歩に亘つて自生の躑躅が生育してゐる。木は低いが枝を多く分つて繁茂し、朱紅色大形の花を密生してゐる。このつゝじは植物學上「れんげつゝじ」(又はおにつゝじ・うまつゝじ・いぬつゝじ)と稱せられるものである。北海道から九州に亘つて廣く分布するがこの様に壯觀



朝來山立雲峽の櫻

な集團分布をなすことは稀である。先年大阪毎日新聞が日本新百景を募集した際に當選したのも

兎塚野原の「れんげつゝじ」

香住の榊

尤な事である。「れんげつゝじ」はつゝじ中花が最も大きく、叢生する花の數多くつゝじ中最美と稱される。近年こゝが冬季スキー場となつたので保存上注意せねばならぬと當局が苦心してゐる。城崎郡香住町一日市天王山麓に和名「もくげん」こゝ「せんだんばのぼだいじゆ」といふ榊樹の自生地がある。榊樹は支那の原産にして、河内國道明寺に老樹あり、木曾山中・北陸地方にもありと稱される。こゝでは長さ七十米・幅二十米の地域に三〇〇本ほど自生して、七月頃に黄色の花が満開する。



「れんげつゝじ」の原野を和見

動物界

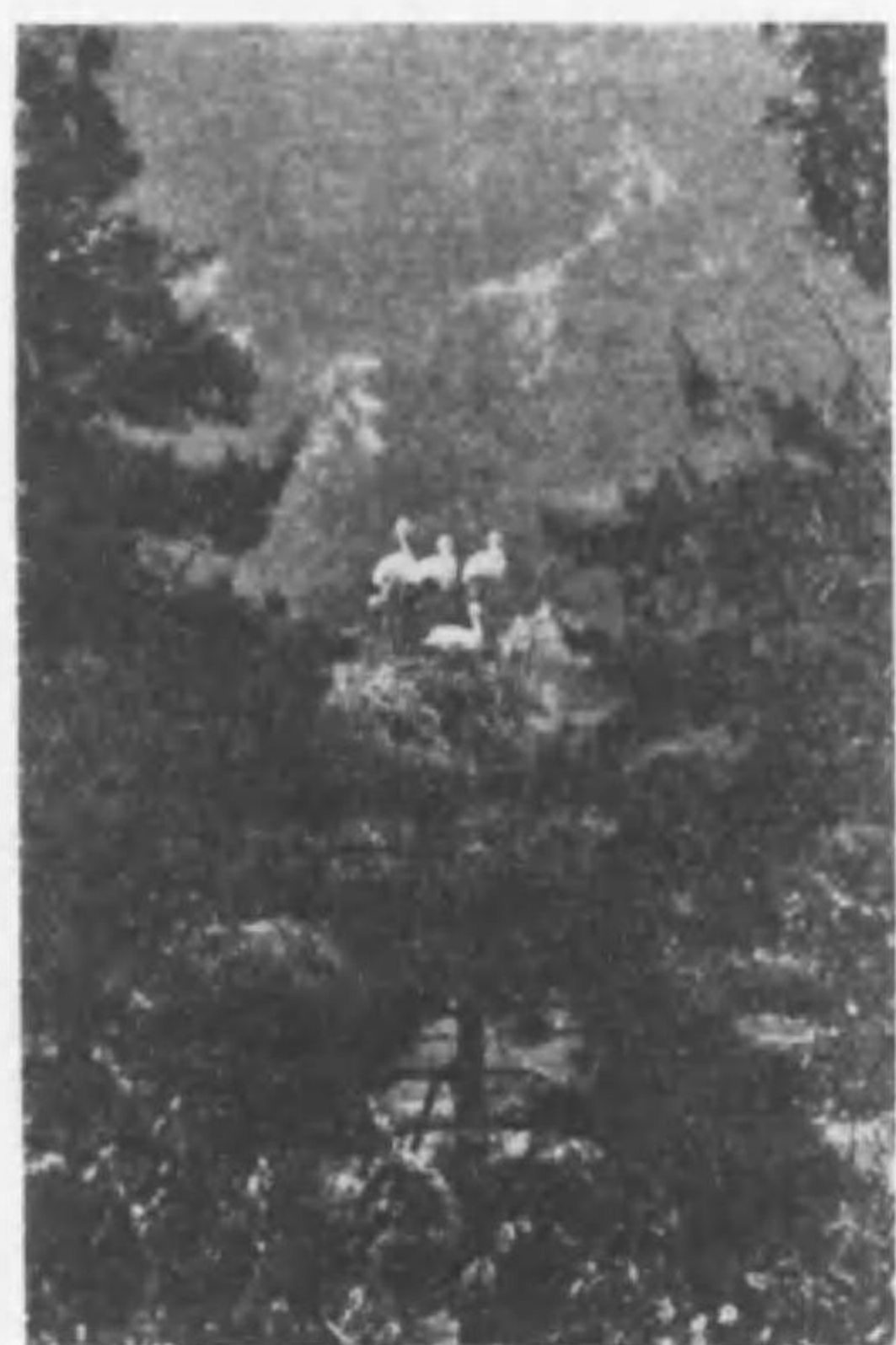
動物方面では前述の如く但馬の特異性を示すものは左程多くない。たゞ鶴が出石を中心として蕃殖してゐることと、圓山川・矢田川・岸田川等に遡上する鱒・鮭が日本海方面に於ける南限界である

ることは我が國の魚類分布の上から注意すべきである。近時但馬土産として京阪神地方に盛んに送り出される蟹は、日本特産の種類で、降雪期の味は都人士に大いに賞讃されてゐる。次に鶴と「ずわい蟹」について少し詳細に説明しよう。

菓(こうのとり)

出石郡室埴村大字弘尾字櫻尾に鶴が巢を営む。此所を中心として小坂村・神美村・出石町等數箇所に巢があるが年に依り變る。鶴は鶴の一種で維新前迄は鶴・鶴は全国各地に棲息した。特に各所の神社佛閣の堂屋上に營巢したものである。しかるに維新後保護の制が廢たれ濫獵された結果、鶴の如きは前記兵庫縣出石附近の蕃殖地を除いて、全國にその跡を絶つてしまつた。それで大正十年三月三日に天然記念物に指定された。鶴は全身純白毛・扇羽・翼の雨覆羽及び風切羽のみは光澤ある黒色を呈し、初列風切羽の外瓣は銀灰色を帯びてゐる。嘴は黒くして先端淡く下嘴の下面は赤色を呈する。眼の周圍は皮膚裸出し脚は赤色である。鶴は數丈の松樹の頂上稍々平坦なるものを選び直徑一米以上に及ぶ杯狀の巢を営む。三月頃三十五個の卵を産む。六月頃迄雛は巢中にゐる。此の間親鳥は附近の水田河畔に昆蟲・鱒・小魚・蛙・爬蟲類・鼠を捕獲して雛を育てる。時に年々巢を營むものもあるが、定つた巢に數年止るものが多い。その總數は不明である

が冬期は稍、その数が少い様である。城山を背景とした出石に飛翔する鶴と、豊岡の圓川河畔に棲息して空に高く旋回する鳶とは二都市を特徴づける鳥類である。形態の大きい涉禽は何れも生存競争に弱く文化の進むにつれ漸次減少の傾があるので大いに保護を加へる必要がある。此の意



松の上の「このう」と「その」との果

味から天保年間に出石藩主が鶴の營巣地を獵場となし鶴山と名を附しここを禁獵の地としたのは適切な制度であつた。

但馬に産出する蟹は學名を「ズワイガニ」といひ、「つのがに科」に屬する。一般には松葉蟹といふ。雄は甲の大きい約十五糎、雌は稍、小

く十糎に及び雌はその味雄に劣るとされてゐる。北は樺太から山陰の温泉津附近に迄廣く棲息するが特に越前・若狹・但馬・因幡の近海にて多く捕獲される。魚期は雄は十一月より三月迄、雌は十一月より一月頃迄で百尋内外の所で汽船の底曳網を以て漁獲される。一般に沖合二〇哩内外の所の魚場であるが、香住の船は往復五日乃至七日を要する隠岐近海に迄出漁する。昭和八年に

すわいがに

は香住では四〇艘、津居山十八艘、諸寄では八艘の従業汽船を所有してゐた。其他を合して約百艘の船が蟹の捕獲に従つてゐる。

第六 郷土人の働き

この項に於ては但馬の風土特質を産業の方面から眺めて見よう。

一 農 業

稲作を最も重視することはアジャ季節風帯に屬する我が國農業の特色であ

つて、我が但馬に於ても農作物中米が第一位を占めるのは云ふまでもない。

河川の兩側に發達した洪瀨平原は必ず水田に利用されてゐる。四山川の流域の如く餘り低濕に過ぎるところは、時に杞柳の栽培に當てたり又水利便の悪しきところを桑畑に利用することもあるがこれ等はむしろ例外であつて、一般には聚落の立地さへ多少傾斜ある山麓を選び出來得る限り平坦面を水田に

稲作

あててゐる。耕地を平坦地のみ求め難い竹野・佐津・香住の如き臨海地方や美方郡の溪谷地方では階段耕作が美事な位發達してゐて、それ等の中には八百米の高位に存在するものもある。

稲は水田に栽培するのを最良とするが、山地の多い美方郡や城崎郡の一部では、畑作りの稲即ち陸稲を植ゑつけること多く、昭和九年の但馬五郡の陸稲の産額は四千六百石で兵庫縣全額の六十五%を占めてゐる。その中、郡としては美方郡が最も多い。これは何を意味するのだらうか。

昭和九年の統計によると米の一反當りの収量が二石を超えるのは朝來郡の二・一九四石と養父郡の二・〇〇一とで、城崎郡二・元二出石郡二・三七五美方郡二・八三〇はいづれも二石以下を示してゐる。兵庫縣の一反當りの収量は平均二・〇九七で日本全國としては米の多收縣である。しかるに、但馬の示す二石以下といふ價はこの縣としては珍しいのである。美方郡の示す二・八三〇は兵庫縣の諸郡中最少の價である。これは山地の傾斜面を利用する水田

は陸稲と同様、平野面に於けるものより一般に管理不充分となり、従つて粗放的な栽培となるためである。又一つには但馬では收穫期の晩秋に降水多きため不利な早生種(早稲)を選ぶことが多いためであらう。

左表は昔と今の但馬の米産額を對比したものである。これによつて、明治

但馬の米産額

寶曆元年	12.8969石
寛永十六年	14.0400石
元祿九年	13.0973石
天保三年	14.4313石
明治六年	14.8147石
昭和四年	25.6214石
昭和五年	25.9556石
昭和七年	24.6269石
昭和八年	29.1190石
昭和九年	17.9262石

以前と昭和の今日との間に産額の上に二倍に近い變化がある事がわかるであらう。

然し乍ら舊幕時代の但馬には天領・社寺領の如きが廣く存在し、それ等は必ずしも石高に加算されてゐないから實際の但馬の米

産額は表に記されたよりも多かつたに違ひない。徳川時代は全國至るところ新田開發の甚だ盛んな時代だったのであるが、但馬では餘り行はれてゐないやうである。これは土地の開發が遠い昔に既に爲し盡されてゐたと解せられる。勿論明治・大正にかけて行はれた耕地の大整理によつて産額は急増した

麦作

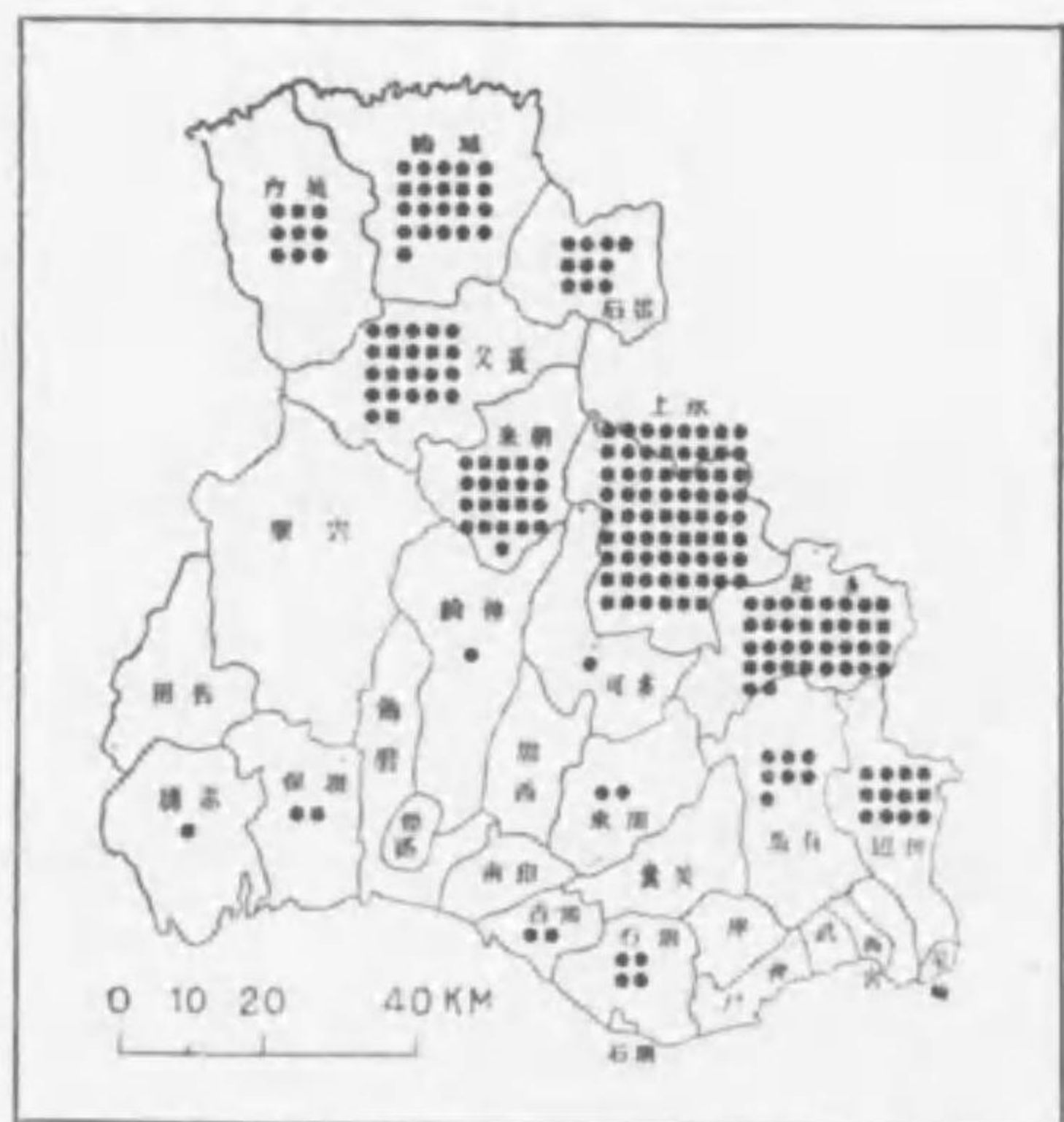
であらう。今日ではその年の氣候状態の如何に依つて豊凶の差異はあるが常年では大體二十四・五萬石の産出がある。米質は全国的にみて優良で、醸造用として表兵庫や大阪地方に少ないながら移出されてゐる。

但馬では裏作が振はない。殊に深雪地帯である美方郡と城崎郡・出石郡の山地區域に於て甚しい。これ等の地方では耕地は多く一毛作田である。裏作として最も重視されるのは全國どこでも麦作である。

凡ての穀物中、生長の期間が最も短くて成熟する大麥が養父・朝來の如き但馬の南方地域に多く産出され丹波の氷上・多紀の二郡と共に兵庫縣に於ける主要産地となつてゐることは穀物の風土適應からみて面白い分布である。西南日本の特に瀬戸内海沿岸地方の特色を表はす裸麥にいたつては山陰區に屬する但馬では養父・朝來の二郡に僅かに産出されるのみで兵庫縣中産額の最も少い地方である。小麥の栽培とその増殖とは全國各地の農村にて目下盛んに奨励されつゝあるが但馬では大麥・裸麥と同じく南方二郡を除けば殆ど

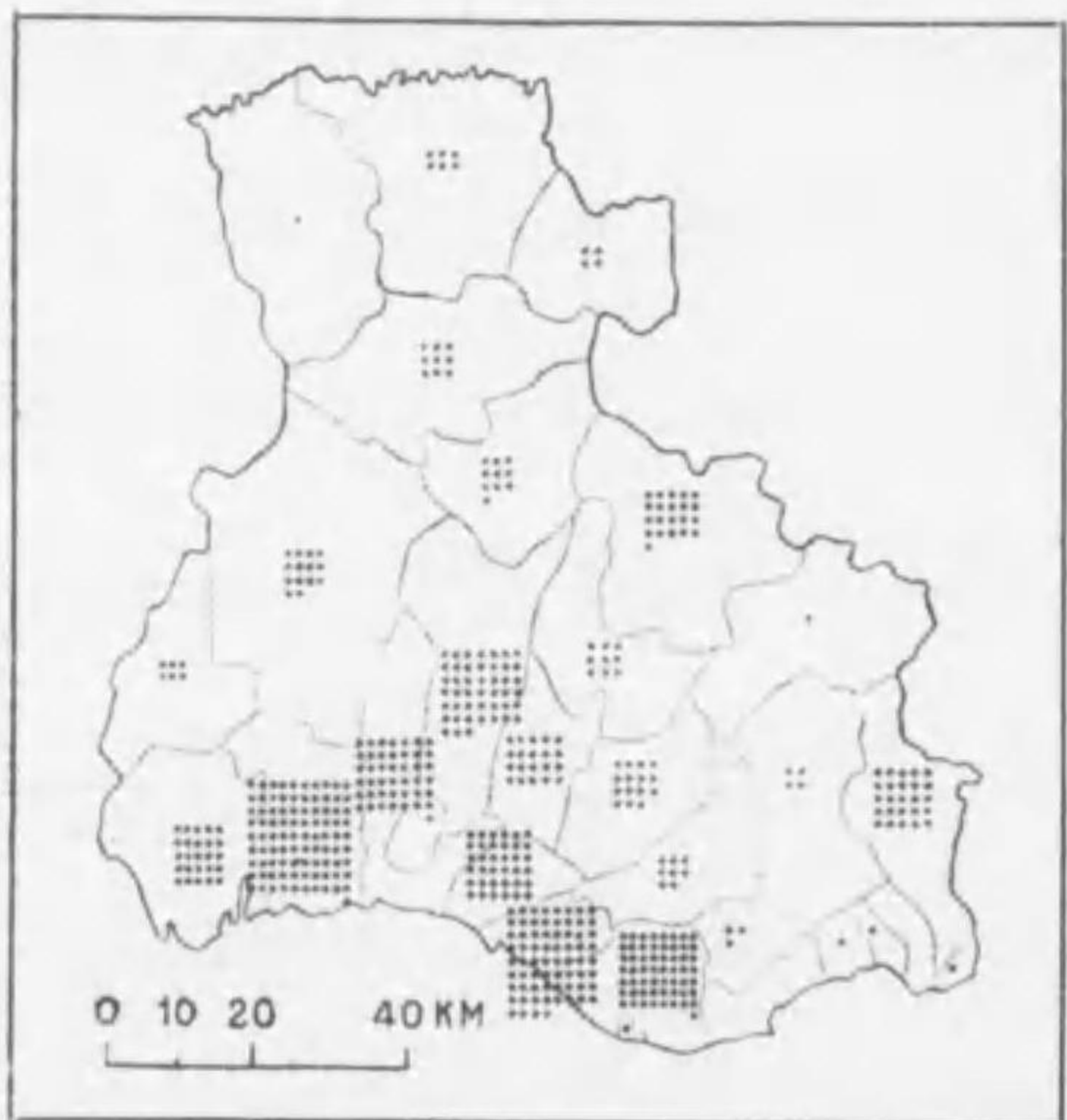
大麥の作付面積

(一 點二十町歩)



小麥の作付面積

(● 印は五十町歩)



言ふに足らぬ。美方郡の麥の産額に至つては全く皆無にちかい。

以上三種の麥の産額は、氣候の項に於て説明した和田山以南の降雪量の變化と殆ど一致してゐる。それ故、朝來・養父の二郡は明らかに表日本と裏日本の漸移地帯と見做される。

我が國の農家の副業として第一位にあるものは何といつても養蠶業である。兵庫縣は養蠶の上では必ずしも内地に於ける第一位の産地ではない。これは表兵庫の地方が大阪平野と共に古くから大都市の近郊地域として最も多角的な耕地の利用を行つて來たため、副業は桑繭業のみに依存してゐないからである。

しかるに但馬ではこの桑蠶の業は著しく進んでゐて、昭和十一年の統計の示すところに従へば、その桑園面積(五四七町歩)は兵庫縣全體の五十五パーセントを占め、繭の産額(七三・二七貫)は全體の五十三パーセントに及んでゐる。但馬内では養父郡の生産が最大であり、就中、廣谷川・大屋川に沿つた諸村

に多い。次ぎにその支谷の建谷谷・南谷北では關宮・高柳谷に多い。西氣・清瀧では特に神鍋山の熔岩面が與へる桑畑によるものが多く、又圓山川本流では大藏・養父市場・八鹿・伊佐の諸町村も多い。日高・國府・中筋では圓山川沿岸の自然堤防による砂質壤土が桑園養蠶に有利な條件をあたへてゐる。又圓山川上流の中川村・竹田町も氾濫原を桑畑とし、養蠶の業がなかく盛んである。この外、城崎郡・出石郡・美方郡の山地では傾斜面利用の桑園が甚しく進んでゐて養父・朝來の村々と共に但馬の主要繭産地をなしてゐる。昭和十一年の兵庫縣の春蠶掃立戸數三六・一二六中、但馬はその二分ノ一を占めてゐる。

一方桑の仕立方にも表兵庫と比較して著しい相違がある。元來桑の仕立方には根刈・中刈・高刈・立通し(喬木仕立)の四種がある。これ等には各、特徴があるが、一般には地形や氣候上の障害のない限り、根刈が最も良い桑の仕立方といはれる。喬木仕立の桑は梢が不規則となり次第に樹勢が衰へ葉が小

となり且葉質は硬化しその上、採葉が著しく不便となる。しかし氣候寒冷にして降霜多き山地や河岸に於ては、屢、水害を被つたり、又積雪の多い地域では枝葉が折れたり汚れたりするのを防ぐ目的で、所謂立通しに仕立てるのが普通である。



みつ桑と桑し通立

氣候の節にて説明したやうに、山多く且積雪の多い但馬としてはこの立通しを選ぶことの多いのは當然のことである。神鍋山や大岡山附近の村々や中筋の如き山附近の村々や中筋の如き

農作物の種類・産額からみて特色の多いのは美方郡であつて、大豆・小豆

粟・稗・黍・蕎麥・甘藷・馬鈴薯・豆・里芋・大根の如きはいづれも兵庫縣下第一の産額を有してゐる。美方郡と同じく山岳地方を西方に廣くもつて

桑通立 ■ 布分の桑通立るけ於に原平涌洪



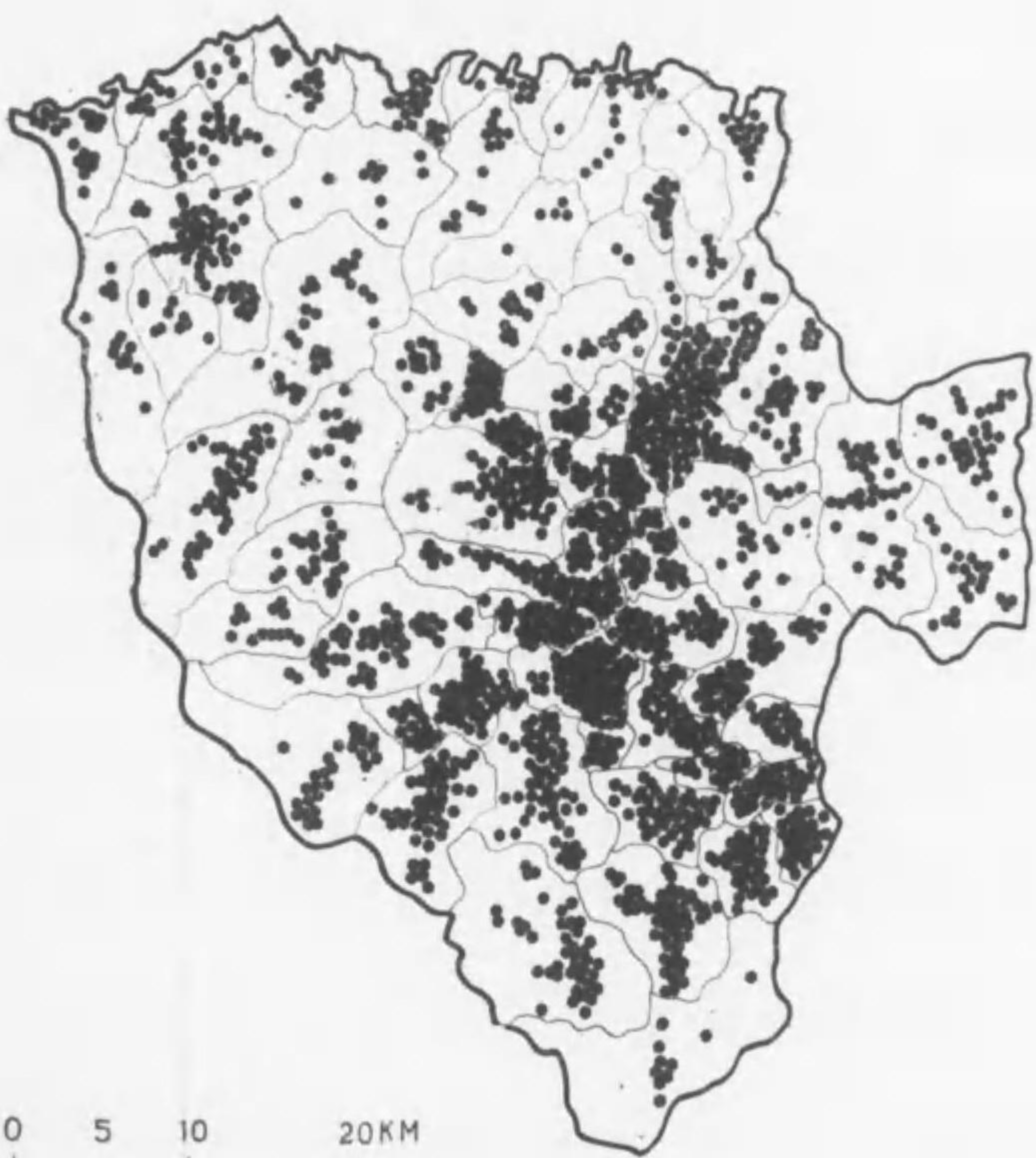
桑の仕立別面積 (單位1町歩)

	根刈	中刈	高刈	立通
城崎郡	579.0	55.8	27.6	896.3
出石郡	178.8	24.4	25.2	382.8
養父郡	283.0	24.7	84.4	1495.8
朝來郡	275.9	31.0	31.9	488.5
美方郡	162.8	99.9	97.5	691.2
神崎郡	190.5	9.1	4.7	109.7
佐用郡	656.6	12.8	7.1	46.4
氷上郡	665.4	132.0	74.8	581.6
揖保郡	515.2	0.9	1.0	1.2

ある城崎郡も小豆・粟・稗・黍・蕎麥・馬鈴薯等に於て美方郡について縣下第二位にある。この事實から畑作物を重視する山地の耕作景が想像される。

繭の分布圖

・點五百貫



園藝農業

都市の發展に伴なふ多角的園藝農業は、但馬ではまだ盛んでない。積雪期に入ると蔬菜の缺乏を來し、山陽方面から供給を受けねばならず、毎年その期には蔬菜の價が高騰する。

果樹の栽培では柑橘類・枇杷・葡萄は年平均氣温の不足から餘り盛んでない。近年養父郡に梨の栽培を試みてゐる。たゞ豊岡盆地周縁の秋を朱玉を以て飾る柿のみは但馬を代表する唯一の果樹であらう。

二 牧 畜

但馬の牧畜として他に誇るに足るものは牛である。それは數に於てよりは寧ろ質に於てである。但馬牛は和牛としての美點を最も多く具備してゐるといはれる。

その特徴とするところは、皮膚の色が暗黒色で、毛が細く且密生してゐる點と骨が細く締つてゐて肉附が良いこと等である。

但馬牛

これ等の特徴は人畜同居による懇切周到な管理のためであるのは勿論であるが、一方には風土の特質が之に大いなる影響を及ぼしてゐるのである。毛



典型的な但馬牛

が細く密生してゐるのは寒さに對する順應であつて、このため體温の保持が完全に行はれ食物の消化並に吸収が良く、延いてはその肉附を大にすると云はれてゐる。骨格の細く締つてゐることは、牛の質の良否を判別する主要な標準をなすものである。但馬牛にこの美點があるのは石灰質の多い土質にもより、又山地の傾斜面を規則正しく上下する牛の運動にもよる。この故に良牛を得るためには少くとも十町歩以上の廣さをもつ放牧

場に牛を放たねばならぬとされてゐる。

但馬の養牛の歴史は明らかでないが、奈良朝時代に既に但馬の朝貢物の一であつたらしく、又舊幕時代に於ては盛んに紀泉の地に需要されてゐた。

明治に入つてから洋種を輸入して改良を試みたことが屢、ある。しかしそのため多少體格の向上はあつたが骨格が徒に肥りすぎ、肉附きが悪くなつたので現在では出來得る限り雜配を行はぬ方針をとり、飽くまで但馬牛の和牛としての正統を重んずるやうにしてゐる。

但馬に於て牛の飼育戸数の最も多いのは美方郡で兎塚・小代・射添・温泉・照來・八田・大庭・村岡等の諸村である。これ等の地方は特に良質の牛を産出することと知られ農家の過半が牛を飼育してゐる。しかし統計にあらはれた牛の飼育戸数は皆牝牛を飼育して犢を生産するとはいへぬ。牧牛地帯は犢の生産數に依つて知られる。昭和十一年には、出産數は美方郡の小代を第一とし次いで射添・温泉・村岡・兎塚・大庭が多く、出産數は大體飼育戸數と

一致してゐる。之等の町村では犢を生産する目的を以て牛を飼育してゐるの

である。即ち眞の牧牛地帯と見做すべき地方である。

美方郡以外の地では之に近接した養父郡の關宮・建屋・高柳・廣谷・糸井の諸村、朝來郡では中

牛の飼養戸數 (昭和十一年)

城崎郡	1814	清三	133	宿南村	69
豐岡町	5	椒石郡	84	朝來郡	2133
新田村	37	出石町	1555	生野町	112
三田村	18	出石植村	17	和田村	228
田鶴野村	3	室小美村	206	東河村	225
五莊村	29	奈佐村	140	梁頼村	256
内川村	71	城崎町	252	粟鹿村	189
城崎町	26	港野村	291	與布村	224
港野村	2	奥竹野村	290	竹田村	289
奥竹野村	37	中竹野村	359	山口村	299
中竹野村	107	養父郡	2514	美方郡	3528
竹野村	120	八鹿町	152	村岡町	271
竹野村	49	養父市場村	155	坂塚村	180
奥佐津村	148	糸井村	263	兎塚村	336
口佐津村	88	大廣谷村	155	熊次村	176
香住町	93	建屋村	282	小代村	484
長井村	117	口大屋村	281	射添村	314
餘部村	68	大南谷村	156	温泉村	356
中國村	72	西宮村	67	照來村	409
八日町	55	關高柳村	84	八大村	402
三氣村	31	伊佐村	346	西濱村	518
	65		281		82
	234		141		
	122				

川・山口・粟鹿の諸村が年産二百頭以上あり城崎郡の奥佐津村・三方村・奥

竹野村も多産地方である。出石郡では養母・高橋二村が二百頭以上あり神美合橋・小坂も二百頭に近い。

牧草の豊富な瀬川山や扇山等の緩かな山麓面は絶好なる放牧地で各部落では共同にて毎日牛をそこに放ち、部落民は互に放牧場を手入し各戸から放たれた牛を交代に監視する。朝夕半里或はそれ以上の牧地へ行き歸りする牧童と一群の牛を見る風景は如何にも山村らしい。犢は浩濶な自然の氣を心ゆくばかり呼吸し、粗い牧地の山谷を駆けめぐり、或は又日課的に石原道を往復するうち、蹄が鍛へられ筋肉が練られるのである。



場牧放の牛馬但
(村次熊郡方美)

小代牛を中心として八田・照來等の牛が但馬牛の中でも最も良質なのは、前述したやうに風土が和牛に適することもあるが、土地の人々の飼育法が實に懇切丁寧を極め、牛を常に家族の一員として取扱ひ、居室と同じ棟下にて日夕之を管理するからである。

時に犢が市に出される場合等、婦女子は涙を以てこれを驛舎まで見送るほどである。養父郡では關宮の谷が盛んであるが、四山川本流に沿ふ地方と同じく共同牧地を有して規則的な放牧を行ふものは稀である。竹田や中川の如き朝來郡に屬する町村では牛の飼育戸数は相當多いけれども、犢を生産することは少く畜牛の四十パーセントが牝牛である。出石郡東部の山深い地方では土地の關係で牧地の多くは狭いが、共同管理を行ふものもあり又盛んに改良に苦心し、犢の生産數及び質の上では美方郡のものに對抗してゐる。これ等は出石の市で賣られる。中竹野・奥竹野・奥佐津もこの地方として良い犢を出してゐる。

豊岡盆地及びその四周の地では牧牛には甚だ冷淡の觀がある。これは平地の純農耕地域では牧牛のための草地少く且古くから杞柳工業等農家の副業があつたため牧牛に勞力を向け得なかつたのであらう。三江・新田・五ノ莊・田鶴野では牛の飼育戸數が少く耕耘期には養父郡や城崎郡の一部から耕牛を米又は金で賃借りする位である。

生産された犢は毎年秋から冬にかけて牧養地の中心聚落である村岡・温泉・濱坂・香住・豊岡・出石・養父市場・梁瀬で糶市トリアが開かれ、和歌山縣・奈良・京都・滋賀・大阪・播州等の商人に買ひとられる。これ等の犢は多く貨車を以て輸送される。しかし近隣の地へはトラックを以て輸送することもある。役牛としても又肉牛としても良い性質を具へた但馬牛は、我々の郷土の大きい誇りで、肉牛として全國に聲價のある神戸牛は主としてこの但馬牛である。但馬で一年間に生産される犢の實數は五郡を合して年産約八千頭で兵庫縣全産の三十七パーセントを占める。この八千頭を農家一戸に割當てると一頭

の産さへないことになる。牧牛の最も盛んな美方郡の小代・照來・八田の諸村でさへ漸く二戸に一頭の割で生産されるに過ぎない。

但馬牛の如き好評ある郷土産物は、もつと澤山飼つてもつと澤山生産させたいならば山地の農村も経済的に潤ふのにと考へるのは一應尤もなことだが、不幸にして良牛を産出する地方ほど降雪量多く従つて飼料・財力が常に不足し勝である。美方郡に於ける現状では農家の飼育牛の二割ほどは縣の畜産組合の貸付によるものである。經濟上の不足を補充せんがため之等の地方民は、積雪季に所謂百日稼として冬季三ヶ月間の定期出稼を行ひ残留する家族は降雪と牛の管理にすべての労力を費さねばならぬ。一方放牧期間が五月下旬又は六月上旬から八月上旬までの第一放牧期と九月下旬より十二月上旬までの第二期に限られ、他の期間は全部舎飼せねばならぬのであるから、農家一戸に牛一頭の飼育は但馬の牧牛地帯の自然的制約であり、又農家經濟上の理想でもある。

乳牛飼育は都市性に乏しい但馬は盛んといへぬ。馬の飼育も兵庫縣としては少い地方である。養父郡・朝來郡では近年養豚が可成り盛んに行はれてゐるが他郡はいふに足らぬ。緬羊は出石郡に於ける百頭が縣下一の數であつて出石川の氾濫原を利用してゐる。養鶏場の經營も近年盛んになつたが表兵庫に比較するとなほ相當の距りがある。美方郡に蜜蜂飼育戸數が多いのは山地らしい特色である。

≡ 水 産

廣い日本海に直面し且小屈曲に富んだ岩石海岸を多くもつ但馬には各種の磯物漁獲がある。又沿岸漁獲や沖漁業に於ても多種のものがあつた。就中秋の烏賊・冬季の蟹・春夏の交の鯖と鯛とはこの地方を特色づける漁獲物である。良灣入をもつた津居山・口佐津・香住・濱坂・西濱の如きは早くから漁村・漁港として知られてゐる。

但馬の漁業統計 (昭和九年)

1. 港村漁獲高及製造高			3. 濱坂町漁獲物及製造高		
總漁獲高	328,950圓		總漁獲高	71,516圓	
	數量(ノ)	金高(圓)		數量(ノ)	金高(圓)
鯷	34,000	3,060	鯷	2,023	2,022
鯧	3,000	4,500	鯧	49,181	29,509
鯖	349,000	124,500	鱈	1,599	1,599
鰯	4,300	1,505	鯛	2,146	6,013
鯛	1,600	5,600	其他魚類		10,396
鰈・鮭	13,000	11,215	貝類	1,035	742
鱈	17,700	10,602	其他動物	40,725	16,319
文鰯魚	35,000	15,005	藻類		4,806
柔魚	34,800	17,400	水産製造物		15,150
蟹	133,000	113,220	4. 西濱村漁獲物及製造高		
蛸	1,800	1,440	總漁獲高	118,603圓	
其他		20,903	魚類	60,973	
水産製造物		57,450	貝藻類	57,630	
			水産製造物	63,629	
2. 口佐津村漁獲物及製造高			5. 香住町重要漁獲物		
總漁獲高	372,007圓		總漁獲高	60,5952圓	
	數量(ノ)	金高(圓)		數量(ノ)	金高(圓)
鰈	115,864	81,005	鯖	96,000	38,400
鯧	147,275	56,144	鰯	380,000	95,000
鰯	161,932	35,625	鯛	3,000	9,000
鯛	1,156	2,890	鰈	620,000	173,600
鯧	18,946	1,250	沖キス	126,000	30,000
其他魚類	15,773	23,314	鮭		20,000
其他動物	1,890	2,005	蟹		68,500
海藻	65,021	4,251			
貝類	1,477	1,001			
水産製造物	101,352	136,417			

但馬では大正七・八年頃から次第に動力附汽船が出現し一時大いに漁獲が

あつたが、今では沿岸での漁獲は漸減した。沿岸では鰯を、や、沖では烏賊釣・鯖・鰯網などが行はれてゐる。嘗て沿岸で盛んに行はれた汽船の底曳網は近海では禁止されたので近年は船型を大きくして遠い沖合に出でて漁獲をする者が多くなつた。これ等の中のあるものは島根縣から山口縣にかけて沖合に出で機械船で底網漁をしてゐる。最近では朝鮮の東北岸から露領沿岸州附近に及び、盛んに鰈・鰯・蟹を漁獲するやうになつた。僅か三・四十噸級の小型船を以て日本海の荒波を乗切つ



(住香) 景のげ掲水の鰈るたれば運りよ州海沿

て大陸近くまで出漁する北但漁民の意気は勇壯といはねばならぬ。



（港住香）景のひ描勢の船流るすとんせ漁出に州海沿に正

の必要もなくなつた。昭和九年四月香住港は内務省指定港灣となり又遠洋漁

この遠洋漁の根據は香住港であつて、政府から兵庫縣に割當てられた發動機船の七割までがこの港にある。昭和五年には漁港の改修に對し國庫の補助を

香住港水産物 （昭和十年）		總額
魚獲物	一三三、二八八圓	受け又
乾鹽製品	四、〇八七	最近北
蒲鉾・竹輪	一四、五四六	西風を
魚肥 其他	三、三〇三	防ぐた
其他食料製品	六、三八八	
	三、六五五	

めの築港が完成した。もと風波の荒い日には帆船航海時代の良避難港だつた東隣の柴山港が代用されたが今ではそ

船と連絡する無線電信局が完成した。尙これに先だつて昭和七年に兵庫縣水産試験場の但馬分場が竣工し、水上ではその所屬船但馬丸が盛んに漁場の開拓と漁撈技術を指導し、一方陸上に於ける試験場では水産物の販賣・製造を研究してゐる。港の設備の點からも、又水揚の成績の上からも香住は日本海屈指の漁港である。

濱坂・口佐津・竹野等も十年前までは香住と争ふほどの漁港だつたが今では遙かに下位にある。たゞ津居山は圓山川の河口に恰好な灣入を扼し、東但の漁業根據地をなしてゐる。水邊に楡比した漁家の家並は風景の上からいつても漁村の典型であらう。

この港や竹野から漁期に應じて、鰹・鯖・鱈・柔魚・蟹・竹輪・焼魚等を入れた「ざる」を擔つた行商婦人が、早朝から豊岡をはじめ圓山川河畔の町村に現はれるのは變つた風景である。彼女等は殆ど定期乗車券による鐵道乗客である。

又、口佐津村の訓谷・無南垣では地曳・大敷も行はれるが、中心は上計で主に鯖・鯖・鰈の漁獲がある。

最近鯖の大謀網も盛んとなり特に五・六月の交にはその漁獲が多い。暖海魚族に属する鯖は南洋方面から對島海流に乗つて北上し、續いて津輕海峡を東に曲り、寒い季節となるに従つて本州の太平洋岸を南下する。そして一年間に完全に本州を巡廻して南方に復歸する回游魚である。但馬の近海を通過するのは五・六月が最も多く、鯖の味の最も賞美される寒期でないためその價格が著しく低廉なのは残念なことである。この大仕掛な大謀網の敷設には莫大な資本と永年の經驗を必要とする。然し但馬近海に於ける鯖の漁獲の大部分が富山縣・石川縣の如き他縣の網主に依つて行はれるのは遺憾なことである。

五・六月の漸く水に親しみを感じる頃、香住・餘部沖約一里の海上に舟を乗り出すならば勇ましい漁夫の掛聲と共に網が次第に縮められて遂にあわた

だしく游曳しはね上る大魚を水しぶきの中に發見するであらう。たとへやう

もなく壯觀なものである。

香住の但馬を代表する漁港である。全町の二十五パーセントは漁家であつて漁撈の外、水産加工業も盛んである。蒲鉾・竹輪の外、鰯や鹽乾魚・罐詰・魚肥の製造まで行つてゐる。生魚は主として京阪神に販賣されるが鯖の如きは冷蔵車を以て東京方面にさへ送られる。一方婦女子に依る生魚の小賣は全但に及び時に生野の峠を南に越すものさへある。この町では人口の六割まで



(香住) 鯖の捕獲状況

が直接水産業に従事してゐる。

濱坂は大正の初期まではなかく盛んな漁港だったが、冬季の鰈・蟹が不漁となつたので今では鯖釣が主である。

西濱村は諸寄・釜屋・居組は各、漁業組合をつくつて鯖の如き磯魚の外多少の底曳網による漁獲が行はれてゐる。

河川に於て捕獲されるものでは圓山川を遡上する鮭である。これは我が國の日本海方面の南限界を示すものである。

圓山川の中流・矢田川・岸田川の清冽な流れには香氣の多い鮭の産があつて、毎年六月の解禁の頃には京阪神の釣師・愛釣家の憧れの的となつてゐる。

四 鑛 産

昭和十年の兵庫縣の鑛産總額は一千萬圓に達し、鑛産に比較的恵まれない近畿七縣中一頭地を抜いてゐる。而もこの一千萬圓中の九十九パーセント以上が我が但馬五郡に産出するのである。先づ統計上から大略の産地・鑛産物種

類・産額を概観して見よう。

主要鑛産町村	主要鑛山	年 産 額	主要鑛物とその産額
養父郡南谷村	明延鑛山(錫)	七・三九・三七圓	九十九%まで錫
朝來郡生野町	生野鑛山(銅)	一・九〇・九二	銅鑛石が一五八萬圓を占む
城崎郡口佐津村	但馬鑛山(金)	五〇・五〇	金製品二十二萬圓・銀製品十萬圓・銀鑛石十八萬圓
出石郡神美村	神谷鑛山(金)	一七・四三	金製品十五萬圓・銀製品一・七萬圓
城崎郡竹野村	竹野鑛山(金銀)	二二・六〇	金銀鑛石一・二萬圓
美方郡小代村	玉代鑛山(金銀)	六・六九	金鑛石四・二萬圓・金銀鑛石二・四萬圓
養父郡關宮村	中瀬鑛山(金)	五〇・七六	全部金鑛石
朝來郡山口村	神子畑鑛山(銅)	二・三三	全部銅鑛石
城崎郡中竹野村	轟鑛山(金・銀)	一三・四〇	全部金銀鑛石

右のやうに但馬が金・銀・銅・錫等鑛産種類に富むのは、花崗岩や石英粗面岩などが廣く分布し、又過去の地質時代中に水成岩の地層に火成岩が進入したなどすべて火山活動の餘恵である。

生野鑛山は佐渡の相川金山と共に採掘の歴史が古く大同二年(一四六七)に發見されたと傳へられてゐる。生野は永く銀山として有名だったが今日では銀の

産額は殆どいふに足らず、産額の上では明延から送られた錫の製品が第一位

を占め、銅・亜鉛・亜砒酸・鉛の産がこれに次いでゐる。銅の精錬に伴ふ煙毒や鑛毒水の問題から熔鑛爐を大正十一年以來岡山縣直島に移轉させた。鑛石は播但線・飾磨港を経てここに運ばれる。生野が最近二十年間に於て逐年人口の減少傾向が見られる（大正七・八年頃一萬人、昭和十年七三〇〇人）のは上述の鑛業經營の合理化に依るもので生野鑛山の衰微を示すものではない。

養父郡南谷村にある明延鑛山は我が國第一の錫の産地であつて内地産の錫の約九割を産出してゐる。これは始め銅山として注目されたのが、明治四十二年に錫



生野鑛山子知選鑛所

タンゲステンの存在を認められ今日の隆盛を來したのである。錫鑛石は生野に送つて、九十八パーセントまで精錬し、次いで大阪の三菱精錬所に送り電氣分解に依つて精製するのである。

石英系の岩石が廣く分布する但馬には金銀鑛脈が多いらしく、近年のゴールドラッシュの波に乗つてその採掘は一段の活況を呈してゐる。

出石郡の神美村立石の神美鑛山や城崎郡口佐津村相谷の但馬鑛山の如きは孰れも近年金産地として著名となつた。各、採掘の場所にて青化法を以て精錬してゐる。我々の學校所在地に近く鑛山見學の好箇の資料を示してゐる。

美方郡諸寄附近から産出する諸寄砒石は石英の斑品を殆ど含まぬ緻密な石英粗面岩にしてその名は全國に及んでゐる。



神美鑛山

五 工 業

在郷と製絲

江原・八鹿・養父・和田山・梁瀬の如きは、いづれも溪口聚落として發達したものであつて、山陰線の停車場をもつは勿論、地方での自動車交通の要地となつてゐる。而もこれ等の聚落がもつ後背地は但馬の主要な養蠶地域である。そのため早くから繭の集散が行はれ、今では近代的な設備を具へた大規模の製絲工場が建てられてゐる。すなはち江原・八鹿・梁瀬・養父の郡は製絲株式會社の工場と和田山の日東製絲株式會社の工場とである。

但馬に於ける養蠶家は多くこれ等の製絲會社と特別なる契約の下に生繭を取引してゐるが、一方蠶絲業組合法に依り産業組合製絲を組織して、生産された繭を組合に提供し生絲として販賣するものもある。この種の製絲工場が日高町にある。(兵庫縣北部乾繭販賣利用組合日高製絲工場)又廣谷町には乾繭販賣利用組合の組織よりなるもの(兵庫縣養父郡乾繭共同販賣利用組合)があつて、製絲の原料

を提供してゐる。



和田山の製絲工場

八鹿に縣立の農蠶學校が設置されたのはいふまでもなくこの地方が縣として蠶絲業が最も盛んな地域だからである。この養蠶製絲地帯は丹波の綾部・福知山盆地に連続するものであつて、兩地方では聚落の形態が全く養蠶向に出来てゐて、但馬の他の地域と著しくその景觀を異にしてゐる。

製絲を動力機械で行ふやうになつたのは、明治も中頃に入つてからの事である。それ以前はどこでも皆座繰で絲を紡いでゐた。美方郡や出石郡の交通不便の山地に行くと今でもこの方法で生絲を紡いでゐる。家庭工業のゆかしい名残である。竹川

や村岡にも曾て相當大きい製絲工場があつたが今では前記のやうに山陰線に沿ふ聚落に限られるやうになつた。これは養蠶地帯に位置すること、鐵道による運搬の便、四山川の水質、勞力たる女工の得易さ等の諸條件に依つて分布の位置が決定されたのであらう。

年額凡そ一千万圓の生絲は、なんといつても但馬の誇るべき産物である。

丹後に近い出石郡では近年縮緬の産額が急に増加した。出石町と資母村がその主産地であつて、城崎郡の日高町にも産する。(出石織物株式会社出石町所在、

但馬縮緬工業組合資母村所在、川上製絲縮緬工場日高町所在) 出石郡が但馬で特に縮緬工業に適するといふわけではなくこれは寧ろ全國に名の聞えた縮緬の産地丹後地方の刺戟を受けて發生したやうである。文化年間、丹後峯山地方から出石郡資母村に傳はり、農民はなかば副業的に營んでゐた。従つて縮緬織の技術は古くから但馬に入つたわけであるが企業としては大正に入つてからのことである。製品の質は産額と共に次第に向上し、幾度か献上の光榮さへ有してゐる。

其他の織物工業

柁柳製品

但馬では綿絲・綿織物工業は諸種の理由から皆無である。之は兵庫縣の他の地方と大いに違ふ點である。絹織物は出石地方の縮緬が大部を占めてゐるから、これは郷土唯一の機業といふべきである。

昭和十年の調べでは、但馬に於ける柁柳製の行李・バスケット・籠の産額は二百萬圓に近く全國第一位を占めてゐる。この中の大部分が城崎郡の豊岡を中心として産出される。

もと原料となる柁柳は、四山川兩岸の河岸濕地並に氾濫原に産したものを主とし、完全に自給自足を行つてゐた。しかし四山川の治水工事が進み、それにつれて原料柳の産額は激減した

ので、不足の分を岐阜・長野・高知・北海道・愛媛をはじめ内地の各地方から移入してゐる。又安價な製品の原料は支那から輸入する。但馬に於ける柁



(市日一村野鶴田) 燥乾の柁柳

柳の消費は毎年全国の六割以上を占め、柳行李といへば直ちに豊岡が聯想されるほどである。

かやうに原料が自給出来なくなつたのに、この工業が左程衰へたと思へないほど生産されるのは、先づ杞柳工業の歴史が古く他で模倣することの出来ない製造上の技術が傳習されてゐるからであり、歴史的に藩政時代から藩主の保護と奨励が大いにあつたからであり、又地理的には積雪の多い地方の農閑期に行はるべき恰好の家庭工業であるからである。品物は異なるが但馬と同じ日本海積雪地帯である丹後に縮緬工業が起つたのは發生上共通意義が含まれてゐるやうである。

杞柳工業の發生した時代については多くの説があるが、明らかでない。しかし豊岡町にある小田井神社に昔から柳箸の神事といふことがあつたり、この神社の攝社である杉森神社を一般に柳を祈る神だといひ傳へたりしてゐるのをみるとその起源が、決して新しいものでないことはわかる。傳へるところ

ろによると、應仁天正のころ既に柳行李が作られそれが販賣されたといふ。勿論その時代の製品は今日と同じものではなかつたであらう。今日廣く用ひられてゐる大行李の類は明治以後の發案であり、昭和の今日に至るまで本邦の旅行運搬用具として甚だ珍重がられてゐる。

編絲の原料である大麻は古來但馬の名産の一つであつた。今日でも低温高濕の氣候をもつた美方郡の小代村・照來村や城崎郡の三方村・三椒村の如き山地の村々では、僅かではあるが栽培されてゐる。これ等を合した但馬産の大麻は年々減少して行く傾向がある。それでも大麻は兵庫縣内では他にみられぬ産物である。但馬の村々を歩いてゐると通稱ドウ(堂)と稱される村民共有の建物の中に、曾て共同で麻蒸しに使用された器具が吊り古されてゐるのを見掛けることがある。行李の生命となるべき麻絲は皆但馬産のを用ひたものであるが、大正五六年頃から亞麻絲を使用し、昭和に入つてからは、ラミ―絲で編むやうになつた。編み絲として大麻が優良なのは勿論であるが、原

料として高價なため大麻は次第に安價な輸入麻である亞麻やラミーに壓されてしまつたのである。このため山村の特色をあらはした麻の栽培が次第にみられなくなつた。

豊岡町の南部九日市や北方の接屬部落一日市などでは、柳を編む仕事も盛んに行はれる。三江村・新田村・國府村・中筋村等でも、又出石郡の神美村でも盛んであつて、これ等は豊岡や出石に集められて加工される。即ち縁竹をつけ籐をかけズックを張るのである。縁となる竹も昔はさほど不足せななだが、今は隣縣の島根や九州の殊に宮崎縣・鹿兒縣等から移入してゐる。籐の如きも南方アジャから香港・上海・阪神を経て輸入し、塗料の如きも澁を除いては殆ど移入品を使用してゐる。ズックも亦大阪・名古屋から仕入れた印度麻の袋を豊岡で加工してゐるのは我々の學校附近でみられる風景である。豊岡では裏町小路に面して軒毎といへるほど柳行李の加工業が行はれてゐる。原料や製品を堆くつんだ荷車や自轉車とすれ違ふ街路の光景は、見慣れ

ぬ人には甚だ注意を惹く。

製品は豊岡・出石の商人の手に依つて移出される。こゝから積み出された製品は、大阪・神戸・東京・京都・呉・廣島・鹿兒島・佐世保・博多・長崎・下關をはじめその他内地諸都市は勿論北海道・朝鮮にも移送され販路は殆ど全國に及んでゐる。又特殊のものは輸出品になる。

豊岡を中心として産出されるこの特色の多い杞柳工業は近い過去に於て大きい受難をうけた。即ち大正の初期から流行の波に乗つて全國の旅行風景を風靡した柳バスケットは、大正の末期に皮製トランクが出現してから急激に凋落したのである。更に大正十四年北但に起つた大震のためと一般的經濟界の不況等不利な條件が相重なつて杞柳工業全般が萎微した。

その後これに對する政策として、或は塗靴や手提籠に、或は椅子に至るまで種々の新しい意匠を工夫してゐる。

殊に著目すべきは、材料を殆ど全部阪神から仰ぐファイバー器具工業が急

激に起つたことである。これは全く数年の間に非常な勢で發展したもので、今では杞柳製品と共に豊岡の特色を示す産物とさへなつた。

杞柳製品やファイバー製品の改良と販路の擴張は組合と商工會を中心にこの地方の人々が日夜腐心してゐるところである。その努力の實状を知つてゐる者は、一萬に近い人々が直接間接に従事してゐるこの郷土の代表産物のために誰しも將來の發展を願ふことであらう。

出石焼と呼ばれる純白色の磁器は、その清淨な感じをもつことと又技術の極めて繊細な點に於て本邦隨一の稱がある。これも亦我が郷土の誇りを代表する産物である。

好景氣時代には三十萬圓を超えるほどの産額もあつたが今ではずつと減少して僅か十萬圓臺に過ぎなくなつた。彫刻入の花瓶・煎茶器・置物等は高價なため大衆向でなく又一般向の製品も他地方の安價に競争し得ぬからである。藩主仙石公の獎勵にかゝる古い歴史をもつてゐるのだから、全国各地の工

業品同様に、品質を低下してまでも大衆向にする必要はなく、たとへ産額は急増しなくてもいつまでも舊來の特質を保持したいものである。

産地はいふまでもなく出石町が中心で數戸に依つて經營されてゐる。

どうして出石にこの陶業が起つたか。それはこの附近に優良な陶土を産出するからである。この陶土は先づ石英系の鑛石と長石系の鑛石とを別々に得、これをトロンミルといふ機械にかけて粉碎し、次にこれを練つて作られるのである。

細工は殆ど型を用ひず皆足けりの轆轤臺（ろくろだい）にのせて手で細工する。繊細な細工が次第に出来上つて行くのを見てゐると全く人間業と思へぬ程である。

百七十年前の明和年間に肥前の有田から傳習して今日に至つた歴史が、無垢清淨な白色と技術に讀み出されるやうな氣がする。今では縣が出石に窯業試験場分場をおいて改良に腐心してゐる。近代的な趣味に適合するやうな染付けを行つたり又香住や射添から取り寄せた土を混じて、澁く雅致あるものを

作り出したりしてゐる。

豊岡藩が杞柳工業を奨励したのに對して出石藩が窯業を保護した。新興工業として豊岡にファイバー工業が起り、出石では縮緬の製造が盛んになつたのを新舊相對比されるのは面白いことである。

出石からほど近い神美村の三宅では明治三十年代に陶土が発見され、出石から職人を入れて茶器や花瓶の本焼を行ひ、青磁まで工夫されたが頽れてしまつた。現在ではコンロや炬燵を主とする素焼が僅かに行はれてゐる。

又豊岡や城崎でも曾て出石の原料と技術を取り入れて焼物を始めたが、發展を見ずして幾許もなく止んでしまつた。

西但海岸の名邑濱坂で製造される針工業の起源は確實なことは不明であるが、明治以前に既に濱坂針の名で全國に知られてゐた。元來濱坂針といへば縫ひ針に限られてゐたのであつて、古い製品は針穴を一々手工を以てあけたから使用にあたつて絲切れがせぬとの理由で大變珍重がられた。併しその後

濱坂針

全国各地で起つた特に全國第一の製針工業地の廣島などの製品が、すべて機械に依つて大量生産され従つてその價が著しく低廉となるのと對抗するため、濱坂でも従來の手工製針は全くすたれ、凡て機械を用ひるやうになつた。そして製品も縫ひ針に止まらず今日では釣針・蓄音器針を始め各種の紡績針まで作つてゐる。この工業は機械を使用して製造するにしてもなほ細密な機械の使用に特殊なる技能と工夫を必要とするから、商工省では我が國の工業の特色としようと大いに奨励してゐるのである。

濱坂では針の原料たる針金は殆ど阪神の移送を俟ち、又原料製品の便からみても工業の立地的意義は乏しいのである。それにもかゝらず依然としてこの工業が繼續されてゐるのは、傳統的な技術の存在による地理的習慣性に基くものと見做すことが出来る。

城崎温泉に産出される桑木細工と麥稈製品は、その高尚優雅と精巧美麗の點でこの上もない遊覽都市の土産品であらう。この兩産物はその發生上から

桑細工と麥稈細工

みて多分にローカルな意味が含まれてゐる。原料となる桑木はもと冬期温泉の閑散期を利用して但馬各地の農村をめくり、桑の老樹を安價に仕入れたのである。前述したやうに但馬では桑を立通しとして大きく仕立ることが多く、而もこの傾向は昔ほど甚だしかつたので割合容易に入手出来たらしい。併し現今ではその仕入圏は但馬に止らず遠く隠岐やその他にも及んでゐる。麥稈ももと但馬産のものを以て加工したが、交通の便が開けると共に我が國の裸麥の核心である播磨や備前方面から優良な麥稈を取り入れるやうになつた。

従來これ等の加工は浴客の少い冬期に思ふ存分の時間と手數とをかけて行はれたのである。かやうにして出来上つた製品は春や夏の店頭に美しく飾られ浴客の購買慾をそゝる。併しこの郷土色顯著な二つの産物は次第に衰微の過程にある。麥稈の染付けとその細工には特別なる工夫と手練を要するので多少存續の可能性があるが、桑木製品にいたつては原料の高價と不足のため又製品が餘りに高尙で高價なため實用性に乏しく、次第に賣れ行きが悪くなつて來た。

人口増加と交通機關の發達の甚だしい現代では、工業品の上に劃一生産・大量生産の傾向を増大し、又大衆に嗜好される安價にして粗惡な製品のみが横行するやうになつて來た。そして時間と勞力を惜しまず丹精に仕上げられた土地の香り高い趣味の工藝品が、次第に影をひそめて行くのを我々の郷土にも實例を見出すことが出来る。

第七 聚 落

道路に直面して生活の機能を發揮せねばならぬ町では、家屋は相互の隔りが殆どなく、聚落はいふまでもなく聚村の型式をとる。しかるに但馬では農村と雖も平地の部落では殆んど聚村型をなしてゐる。これは大阪平野や奈良盆地の如き典型的な聚村をもつ地域と同様である。たゞし平地の面積が狭少

なため聚落内の道路には東西南北の規則正しい條里の跡は見られぬ。廣い平坦地を見出し難い山地では多少散居するところもあるが、それでも出来るだけ互ひに近接しようとする傾向があり、そのために聚落は團塊の形を示したり或は連村を形成する場合がある。

一方平地の少い但馬の農村では、平坦面を出来るだけ耕地殊に水田にしようとしたため聚落は山野の交界に細長く發達してゐるものが多い。勿論それ等の中には水害をさけることに基因するものもある。

家屋といふものは文化の差異に従ひ地方毎にその様式を異にしてゐる。又家屋を構成する材料やその建築の細微な點では最も自然環境に適應して出来上つてゐるものである。それでは但馬の家屋にどの様な特徴があらはれてゐるかを調べて見よう。

但馬では二階造りの家屋が甚だ多い。町では地價が高いので建坪を出来るだけ少くしなければならぬから、平屋建より二階建の家屋が多いのは當然で

家屋

二階・三階建の家屋

三階建農家



三階建農家の分布圖(點は二戸を示す)



ある。然るに但馬では農村地域に於ても一階より二階建が多く時には三階造りがあるといふ特異の現象が見られる。

但馬の南部の山間溪谷特に養父郡の中部から西部にかけては、二階建時には三階建の高屋が巍然として立集つて田舎では珍しい居住風景をなしてゐる。この二階建・三階建の家屋は定つて薄茶色をした厚い土壁が塗られ、それに規則正しい排列をした窓が設けられてゐる。その外見は一寸異國的な風趣をさへ感ぜしめる。山陰線で八鹿・江原を通過する際、注意深い旅行者には必ず目につくところである。この種の家屋の分布上の核心は養父郡大屋村と高柳・關宮の谷であつてこの特色ある建築は但馬の大部分に波及してゐる。而白いことにはこの家屋の分布が養蠶や繭の生産分布と全く一致してゐる。

それでは何故に養蠶地域にこの様な二階や三階造りの特異な家屋を生じたか。これ等の家屋は大抵一階は居住に二・三階は養蠶に利用してゐる。蠶の飼育場を一は建坪面積の節約から、又一つには高層家屋は風通し良く蠶の飼育に有利であるから造營されるに至つたものであらう。

併しかゝる家屋の特異形態は元來但馬に生じたものでなくて、今より百數十年前の明和から享保にかけて養蠶の盛んな信州並に奥州の福島・伊達地方より傳習したといふことである。

その後、次第に發達したが著しく増加したのは日清戦争後、外國貿易の進展に伴なうて生絲が輸出品の重鎮となり、これが但馬の養蠶業にも一躍進期をあたへて以後のことである。この地方の平家が二階に改築されたのは多くこの時期であつた。

最後に大正七・八年は近代に於ける桑蠶經濟の最も好景氣な時代であつたので、この時期にはかなり廣範圍に分布の擴散が行はれたのである。

前記のやうに二階・三階は大部分は養蠶に利用してゐるが分布の中心を外れた縁邊部では單なる模倣によつて二階建・三階建を建設してゐる。二階・三階の部を俗に「たか」と稱し物置として利用してゐるものがある。農村に限

屋根の種類

らず商業機能をもつた町であつても天井裏を物置として利用することの多いのは雪國但馬の特徴と見ていい。

聚落を概観して最も目につくものは屋根である。屋根の葺き方やその傾斜の度には各々風土の地理的な意義が含まれており又屋根を葺く材料も地方毎に變化して興味深いものである。稻の栽培を第一とする我が國の農村では藁屋根の多いのは當然で但馬も同様である。併し町附近の農村聚落では町の模倣による瓦屋根が次第に増加して來たから今では全村藁屋根といふやうな聚落は極めて稀となつた。それでも美方郡や城崎郡・出石郡の山地にある純農村では、やはらかい曲線を描く親しみ深い藁屋根の家屋が多數残存してゐる。

等しく藁屋根に見えても仔細に注意すると笹葺であつたり時には茅葺であることもある。茅は古來屋根の材料として第一等品と目されてゐるが原料の高價なるため但馬ではあまり多く見られぬ。これに反して笹は材料が手に入れ易いので盛んに利用され、殊に山地の農村では稻藁を凌駕するところさへ

藁屋根

笹葺と茅葺

瓦葺

ある。これは一つには藁の節約から來た結果だらう。

藁屋根について廣範圍に互るのは瓦屋根である。但馬の商業機能をもつた町は概ね瓦を用ひてゐるし、又前述したやうに、町に近い農村ほど草屋根に交つた瓦屋根の割合が多い。

板葺

併し美方郡の村岡の如きは古來山陰道に沿うた名邑で、早くから都市的機能を發揮した聚落であるが、瓦屋根の外に板屋根が全體の四分の一にも達してゐる。この特色は單に村岡に限らず同じく美方郡に屬する兎塚村の福岡や（こゝでは瓦瓦に對し板三の割合）又小代村の大谷・城山等では聚落の過半は板葺である。これほど大きい割合を示さないが、養父郡の中、美方郡に近接した關宮・大屋の諸村や城崎郡の南部に近接する伊佐・八鹿・養父市場等の村々も、板屋根を交へる率が大きい。

火災防止の見地から板葺屋根は次第に減じて來たが、これは藁屋根同様山地の住民に古くから利用された屋根の材料であつたのである。矢田川や圓山

赤瓦

川の上流地方に、殊に今日の交通幹線を外れた舊山陰道に沿うた地方に、この種の屋根を多く見るのは意味のあることである。

津居山から西方居組に到る臨海地方では西するに従つて一般に石州瓦と呼ばれる赤褐色の瓦を用ひることが多くなり、始めて山陰を旅する人々の目を慰めてくれる。

西但地方で最大の聚落濱坂では八割までがこの瓦であり、有名な餘部の陸橋から下瞰される聚落でもこれが大半を占めてゐる。

この石州瓦を使用することは臨海地域から次第に南方に及んだもので、但馬全域で散見せられる。但し赤瓦は新築された家屋にのみ使用されてゐる。臨海地域のもとは雖も赤瓦の使用の起源は、全く近年のことである。

石州瓦は名の如く石見國がその主産地で濱田を中心として生産される。特殊な釉薬を施された赤瓦は、冬季の寒冷に對し、凍結による破損の憂ひがなく、その販路は東は鳥取・兵庫や京都府の一部に及び西は山口・福岡・佐賀

の日本海方面にまで及び、裏日本の居住風景に著しい特色をあたへてゐる。

瓦はその價に比して重量が大きいので運賃の關係上、もとは帆船に依る搬出が可能な臨海地域にのみ限られた。山陰線開通後は、水運より鐵道による

輸送が大となつたけれども原價と運賃との關係上、東では北但地方がその輸送限度となつてゐる。

北但地方に於て赤瓦を使用するやうになつたのは、勿論山陰線の開通以後であつて、赤瓦の



(校學中岡豊) 瓦るあのみ止雪

使用が南方に進むほど少くなるのは、運賃の累加によつて南方に向ふほど價が高まるからである。又もう一つには南但地方では、積雪量が次第に減じ、耐寒性の瓦を北ほど必要とせぬからであらう。

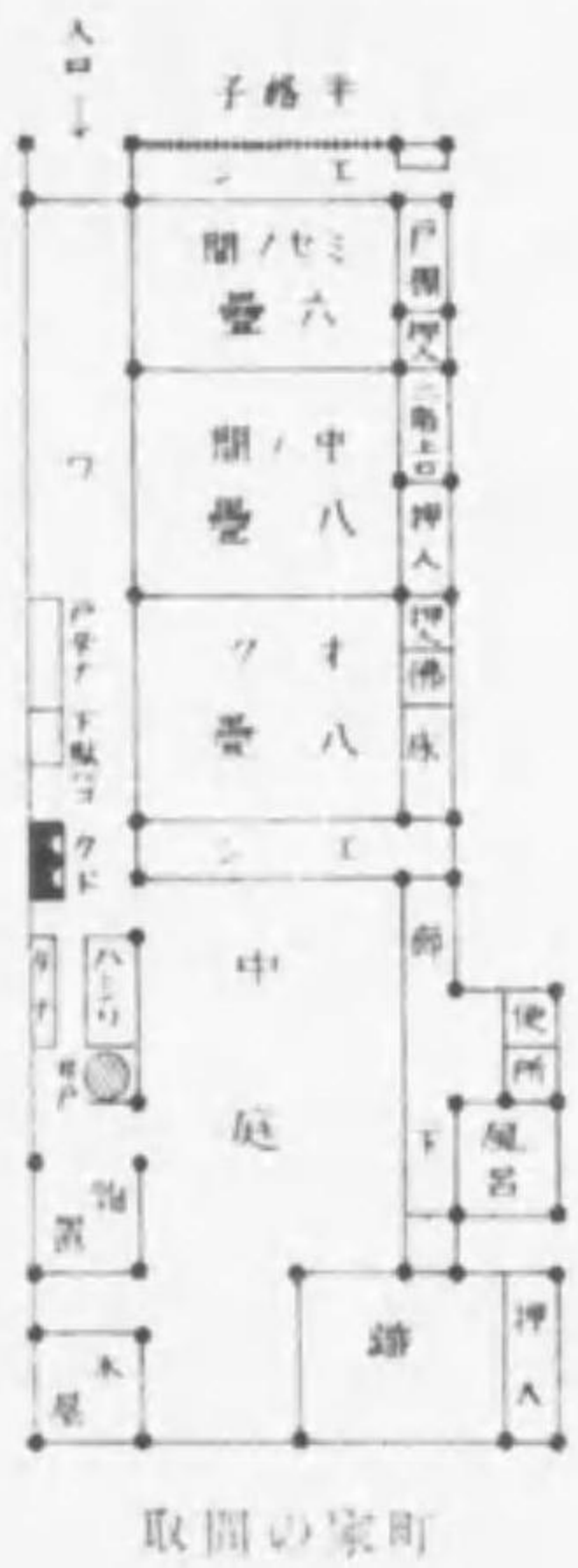
写止め風

小さい事ながら瓦の表面に小さく彎曲した持ち手のやうなものをこしらへるのは積雪の通り落ちるを防ぐため表日本の瓦には見られぬところである。次に家屋の間取りについて調べて見よう。

町家の間取

一般に町では間口が狭く奥行の甚しく長い所謂「鰻住居」式のものが多い。圖は豊岡の商家の一例であつて

大きい奥行に對して一つの屋根では蔽ひ切れず、時には平入の屋根が二つも三つも繋ぎ合はされることがある。又中庭を作り、



取間の家町

その片側の和土道で、通稱「部屋」といはれる離れに通ずるものもある。この離れが時に土藏であることもある。北陸道に沿うた富山・高岡・金澤等にはこの様な片側住居が普及してゐるし、又京都の町家でも殆どこの様式である。

農家の間取

奥行長く、しかも隣家と相接近して、左右に窓が設けられぬから、この様な家屋では降雪期は勿論其の他の季節でも晝なほ暗いことが少くないので、

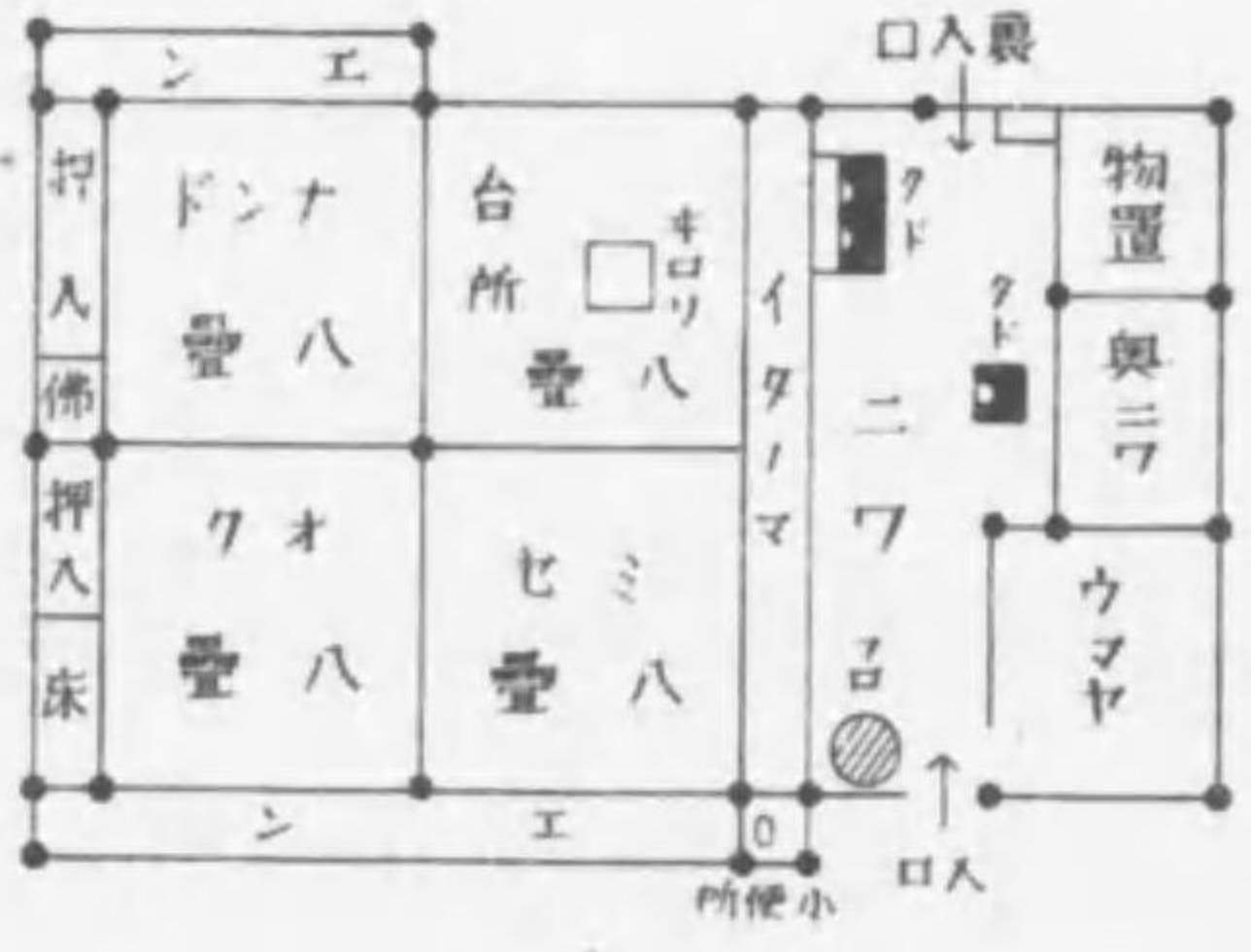
大便所

明り窓といつて屋根の一部を硝子張りにする必要が起る。

農家の間取りは町家のそれと全く反對で、大抵間口の方が奥行より大きい。多くの農家は広い土間と十字形に仕切つた四間取を行つてゐる。この四間取は家屋の最も自然なしかも最も古い形式である。

牧牛を重視する但馬の農家では厩(普通にはマヤと呼ぶ)を人と同じ棟の下に設けることが行き互つ

てゐる。これは牧馬の盛んな東北地方と等しく衛生的見地からは避くべきこととしてあるが家畜の管理の上からは便宜が多い。牧牛の盛んな美方郡の諸村に



取間の家農

行くと人畜同居のやうな生活を見る。

この地方で「ニワ」と呼んでゐる土間は炊事・入浴・物置など農家では大切な空間で、作物の收穫期にはこゝで各種の仕事がせはしく行はれるのである。こゝを「アキバ」と呼ぶこともあるのはいふまでもなく秋の仕事場であつて、近畿地方の大阪・奈良のごとき中央低地の農家の土間より遙かに広い面積をもつことに、地理的に考へさせられるいろ／＼の意味が含まれてゐる。

村岡や出石の街路に面した町家に京風の格子造りの家が今も目立ち、二階と一階の間に突き出た小廂のさゝえに神社佛閣にてよくみるやうな彫刻が施してあつたりして家の建て方の全體にどこことなく古風な城下町の香がたゞよつてゐる。



(町石出) 屋家の式様い古

古い様式の家

紅殻・煙出しこ
たつ・あろり

以上の外、家屋の柱や板の間・手摺等に紅殻を塗る習慣や、養蠶の盛んな地方ほど立派な煙出しをもつた家があるのに注意が惹かれる。なほ切り炬燵や農家の圍爐裏なども雪國の住居として再考參思すべきものがある。

孤立莊宅の少い但馬では關東平野などで見られるやうなこんもりとした杉の防風林でかこまれたり、又東海道邊でみられるやうに綺麗に刈り込まれた槇の生垣等をもつ家屋をみることに極めて少い。これは平地の村と山地の村との景観上の大きな差異であるばかりでなく、一つには但馬の冬季の卓越風が弱いためもあらう。養父郡・美方郡の山地に入ると町家でも又農家でも屋敷内のどこかに赤い實の美しい南天を植ゑるのに氣が附く。南天は毒消しになるといふ古くからの言ひ習しが山間僻地ほど行き互つてゐるのは獨り但馬のみではなからうけれども。

第八 交 通

古代に於ける但馬の陸上交通路はあまり明瞭にされてゐないが、陸上の交通路を地形的に有利な河川の溪谷や海岸の低地に求めたことは昔も今と變りなかつたやうである。

古代文化の中心であつた難波や、大和から但馬への往來は、播磨路を経て山口郷に入り北進して但馬の國府に達したことが多かつたであらう。それは生野の鞍部が峠越しに最も安易な陰陽の境をなす地形から考へて當然のことである。

生野は圓山川と市川の分水界をなし曾てこゝを往來するものが屢々殺害の難をうけたので、「死野」の名稱を以て呼ばれたのを、應神天皇の御時に佳名生野に改められたと播磨風土記にある。これは生野地方が古代交通の要點であつたことを物語るものである。但馬の文化は播磨からこの峠を越して圓山川の溪谷を北上したものが多かつたに違ひない。鐵道開通前に阪神より但馬に輸送された物貨の大部は、阪神より海路を以て先づ飾磨に陸揚げし、こゝ

から姫路に運ばれ、次に市川の谷を北上して生野を越え、次いで圓山川の谷を下つたらしい。このことは運送店の發達史からも伺はれるのであつて、生野越えが古代交通路として頻繁に利用されたことを裏書してゐる。

陸上交通路として次に注意すべきものは所謂山陰道であらう。これはいふまでもなく京都と但馬を連絡するもので、交通路としての利用の多寡・難易の程度は別として、交通路としての古さからは決して前記の生野越えに劣るものではない。延喜式や倭名鈔(皇紀一五六七年醍醐天皇の御勅命を以て編纂された本で、

朝廷の年中儀式・百官臨時の作法・其他各國の定例を詳細に記されてゐる)に「行程上七日・

下四日」と記されてゐるのは但馬の國府(今の城崎郡國府村)より京都に年貢を運ぶに要する日數をいつたものであつて、上りに七日、下りに四日を要したとの意である。上りには下りより三日多く費してゐるのは、上りは荷物があつたためであらうか。

古代に於ける主要な交通制度は驛遞である。驛傳が但馬にも設けられたこ

とは延喜式に記載がある。即ち「但馬の驛馬・粟鹿郷・養老各八匹、山前五匹、面治・射添各八匹、春野五匹」とある。この中に記された地名の全部を現今に求めることは困難であるが大體・夜久野の谷・矢名瀬・和田山・養父・八鹿・八木・關宮・福岡・村岡・春來峠・湯村・蒲生峠を經由して因幡の國に入つた舊山陰道に沿うて驛馬がおかれてあつたと思つてよいだらう。然し熊次を駒繼の轉化と考證する人もあるから或は前記の經路中、關宮から西折し、氷ノ山越えして因幡の若櫻村に入つたことがあつたかも知れぬ。けれども氷ノ山峠の高さが一二五二米もあるので實用的には利用價值が少なかつたといはねばならぬ。但馬に於ける驛遞時代の驛所相互間の距離が推定して今の四里に相當することは古代の交通狀勢を知るに大切な價である。

次に丹後より海岸傳ひに但馬に入つた交通路は、山地が斷崖を以て直接海に臨むことの多い地形から考へても餘り古いものではないらしい。但馬考に「驛馬の時代に丹後を経て但馬に入ると拾芥抄にあるは誤りならん」と記して

ある。舊山陰道が海岸を通らず八鹿より西折して村岡・湯村に向つたのは海岸近くでは小さい峠を幾つも越さねばならぬ煩しさのあるのを避けたものであらう。

全国の街道中には例へば東海道・中仙道・甲府街道の如く徳川時代に參觀交代する大小名の宿泊した本陣・脇本陣をはじめとし、古風な旅小屋を今に遺すものもあるが、但馬ではこの種の宿驛は殆ど見られない。これは所謂山陰道の淋しさを物語るものであらうか。前記の古代交通路は勿論長距離の徒歩交通に使用されたもので、此の外國内の近距離に利用された道路は枚舉にいとまないほどある。

この街道に依る交通は極めて近世に及び、近代長距離陸上交通の革命をな



橋 陸 の 部 餘

した鐵道の出現まで繼續したのである。鐵道の開通は裏日本區にあるこの地方では表日本區に比して著しく遅れた。

今但馬に於ける鐵道敷設年月日に依つてその發達經過をみるに、京都より西進して來た山陰線が朝來郡梁瀬まで達したのが明治四十四年である。梁瀬・和田山間はこれに先つ三十九年に、和田山・養父・八鹿間は四十一年に開通し八鹿から江原を経て豊岡に達したのは漸く四十二年七月のことである。豊岡・玄武洞間は四十五年に敷設され幾多のトンネル掘鑿に困難を極めた玄武洞・城崎・竹野・佐津・香住間は明治四十四年中に、かの陸橋で名高い餘部の鐵橋をもつ香住・鎧・久谷間は明治四十五年に完成した。これに先つ四十四年中には久谷・濱坂・居組間が開通してゐる。

山陰線は舊山陰道と殆ど同じ通路を求めて西進してゐるが、八鹿よりは北進して豊岡・城崎に至りこれより海岸聚落を縫うて西進して、從來の交通路を甚しく變化させた。曾て但馬の一城下町としてその名を誇つた村岡の如き、

この劃期的交通異變に際會して永く山間の一小中心として残されるやうになつた。又此の鐵道幹線に直接觸れ得なんだ出石も同じ運命に陥り、豊岡にその優勢を譲らねばならぬやうになつた。

播但線は生野鑛山の鑛石運搬に必要ながあつたため明治二十八年四月早くも播磨側から生野に達した。これより數年遅れて三十四年には生野から新井まで、三十九年には更に竹田を経て和田山に到達した。この播但線は全く古代交通路の復活とも見做さるべき主要な陰陽連絡線である。

はるかに遅れて昭和七年八月には宮津線が開通されて、曩にあげた古代交通路の主要三街道は、すべて鐵道通過の地と化したのである。

近世に於ける交通路と交通機關の發達ほど大きく人類文化に影響したものはない。一地方や一國の文化の程度は交通の如何に依つて全班を想像する事が出来る。封建時代の徒歩交通期に見られた地方色は交通機關の整備と共に次第に失はれて行く。京濱や阪神で脈搏つ文化の流れは毎日日本の津々浦々

交通量

まで泌みこんで行く。かくて全国は統一ある中心文化に依つて次第に染められて行くのである。しかし交通機關の整備は全国一様でなく場所的に非常な相違が認められる。但馬の如きも山陽方面と比較するならば交通機關の數と量に於て甚しい差がある。今假りに山陰線に沿ふ豊岡驛と山陽線に沿ふ姫路驛に於て一日に通過する旅客列車(豊岡驛では山陰線のみ、姫路驛では山陽線のみを數へる。昭和十三年三月調)を比較すると豊岡では上り下りを合して三十三列車、姫路では六十一列車で其の比は凡そ一對二である。若し旅客列車數のみでなく貨車を合し或は急行列車の數や一列車の客貨車の實數も加へて綜合した比較をすれば更に大きい差となるであらう。鐵道の交通量の少いことが我々但馬に生活する者にとつて影響するところは甚大である。

自動車交通

自動車の出現は近距離の交通に著しい變化をなし、そのため明治・大正年間に全盛を極めた國産人力車は今殆ど見られなくなつた。文化の進歩とともに交通機關は迅速なものが尊重されるからである。自動車は旅客のみならず

常便

ず貨物の輸送にも變化を與へた。最近では貨物自動車は近距離のみならず但馬から二・三十里も距つた京阪の地迄も往來してゐる。物によつては運送の便宜上、鐵道より貨物自動車の方が有利な場合があるからである。かくて鐵道の出現に依り一時輕視された道路は自動車交通の發達に依つて再び重要さをもつ事になつた。山間避地といはず國內至るところ良き道路を有することは文明國の誇りである。我々は道路を愛護すると同時に、良道の建設につとめねばならぬ。

但馬に残る古い交通制度の遺物として常便といふ言葉が今も盛んに使用され又それを利用することの多いのは甚だ興味ある事實である。常便とは甲乙兩地間の比較的小量の通信物や荷物を依托されて定期又は不定期に運搬する者をいふのであつて、郵便局と運送店を兼ねた働きをする。古い時代には荷車を以て運搬するのを本體としたものであらう。勿論河川の利用の可能な場合には例へば城崎・豊岡間の如く舟を以てしたこともある。現在では荷車に

限らず常便の利用する交通機關には自動車もあれば汽車もあり、その距離も京都・大阪の遠きにまで及んでゐる。

交通の障害物
(山と雪)

但馬の陸上交通に對する自然的制約として最も大きいものは山地の多い地形と雪の多い氣候とである。山地が交通に與へる障害はその起伏と傾斜である。徒歩交通時代でさへ可及的に傾斜の少い溪谷が選ばれ、又頻繁なる峠越えをさせた。山國但馬の陸路は此の地形的制約を最も大きくうけてゐる。

峠の多い臨海地方では今でも尙自轉車・自動車を通ずる一本の實用道路さへ得られないのは地方民の常に不自由とするところである。鐵道は極度に傾斜を避ける性質から止むを得ざる場合はトンネルを作る。城崎以西の山陰線敷設はトンネル掘鑿のため莫大の費用が支辨された。電化されない汽車のトンネル通過の時ほど夏の乗客を苦しめるものはない。一體山陰線は我が國でもトンネルの多い鐵道なのである。此の點でも山陽線と大きいハンディキャップをもつ。

氣候的障害として最大なのは積雪である。山間地方では古くから「カンジキ」を足につけて新雪上の徒歩が行はれた。これは東北や北陸の深雪地方と同様である。山地ならずとも積雪が多い時は自轉車も自動車も不通となる。漸く通ずる程度に融雪してもから迂りする。かゝる場合、自動車にけたまひしい音をたてる迂り止めのチェーンをつけることが最近になつて行はれるやうになつて來た。鐵道ではラッセル機關車の出勤と除雪人夫の努力によつて漸く列車を通ずるが所定の時間に正しく驛を發着することが出來ず乗客に一種の不安と不便とをあたへる。

雪國の交通機關として人は直ちに楯を想像するであらう。しかし冬季の氣温が餘り低くなく日中氷點以上に昇り勝ちなこの地方の雪は水分多く溶け易い。この雪質のため楯が滑走するによい雪道が作れない。従つて但馬では楯の使用はむしろ稀である。時に大雪に際して使用するものがあつても如何にも間に合せて幼稚なものである。これは等しく雪國といつても北海道・樺太

楯のこと

などとは雪質が根本的に相違するからである。これらの地方の降雪は必ずしも多量でないが気温が低いため一度積れば冬季中溶けないのである。近年盛んになつたスキーにしても高緯度の降雪地方にて迂る場合と但馬で迂るのは全く滑走の趣きを異にしてゐる。

海上交通の衝として古くから全国に知られたのは但馬では柴山港（丹生湊ともいつた）で、江戸時代には奥羽から西廻し馬關海峡を経て難波・江戸と運送した船は必ずこの港に立寄つた。當時の和船にとつて適当な小港灣であつた。しかし汽船時代となり陸上に迅速な鐵道が驅るやうになつてからは、後背地の小さい但馬には一の貿易港もない。津居山・香住の如きも僅かに大型漁船を收容する程度で決して但馬の物資を吞吐する港でない。

河川交通路として稍、著目すべきものは四山川のみである。古くは津居山口より豊岡を経て出石・八鹿邊まで可成り大きい和船を通じ盛況を示したが現在では殆ど衰へてしまつた。たゞ津居山・城崎と豊岡間に於て漁獲物を運

海上交通

河川交通

ぶ小蒸氣船と、時に帆船が玄武岩等を運ぶにすぎない。但馬における水上交通に依る貨客の輸送は陸上交通に比すればいふに足らぬ。

昭和六年七月より大阪・城崎間に日本海航空會社の定期航空路が開通され實用と遊覽に供せられてゐる。これを利用すれば城崎より大阪まで一時間三十分にして達することが出来る。

航空路

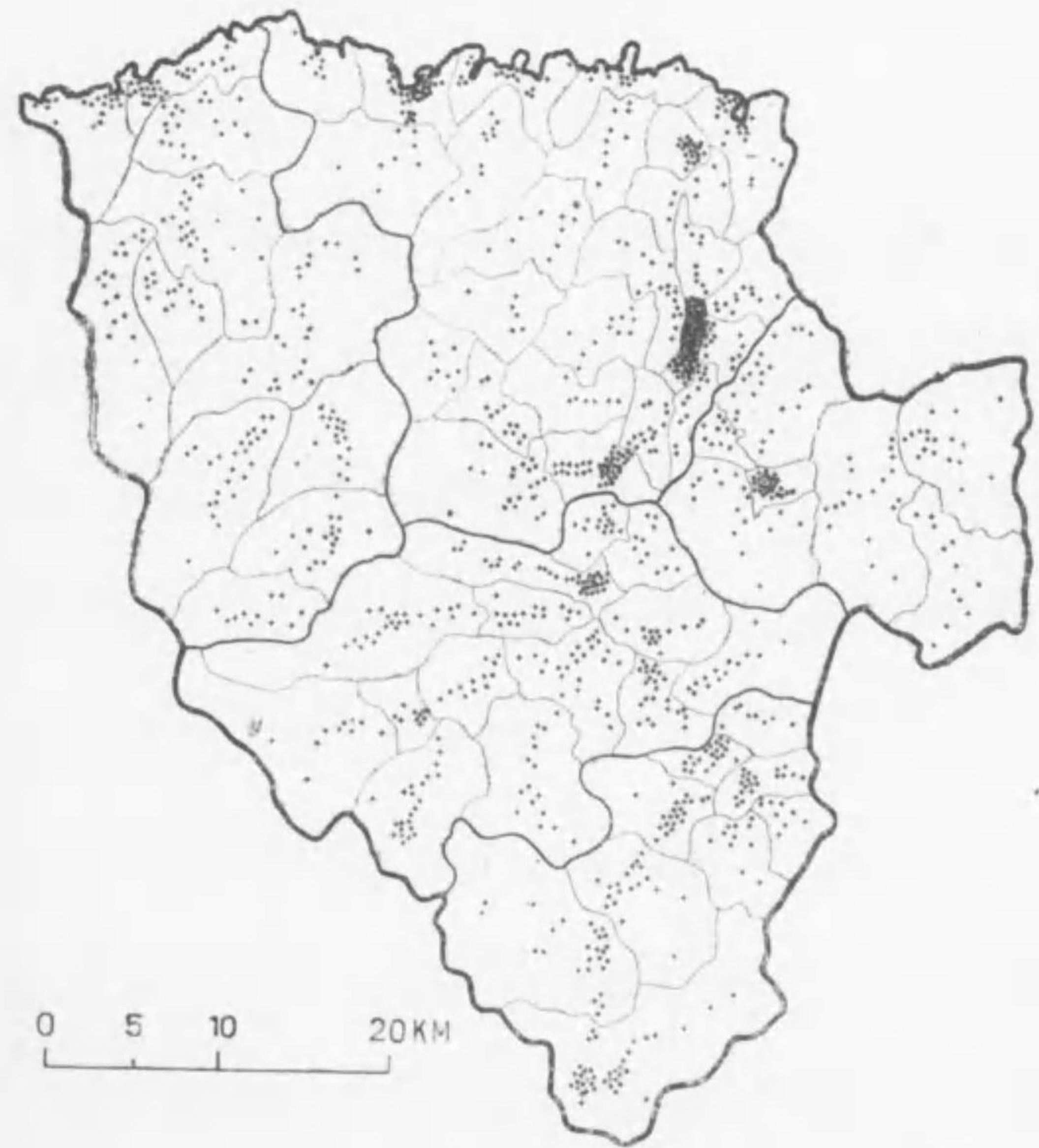
第九 人口現象

昭和十年の調査によると但馬五郡の人口は約廿三萬である。人間活動の舞臺としての但馬は諸種の自然的・人文的影響をうけてその價值が場所に依つて一定してゐないから、この廿三萬の人口がある所では密にあるところでは甚だしく疎らに分布してゐる。今これを人口分布圖で概観してみると、第一に豊岡盆地を中心とした人口集團が注意を惹きこれに續いては、四山川の谷にそつた南北方向の集團分布帯がある。これに對して城崎郡の西部山地・出

人口分布

但馬人口分布圖

(昭和十年の調査)
一 點 二 百 人



石郡東南部の山地・美方郡の全域及び養父郡の南部等では溪谷の發達してゐるところに僅か乍ら小集團を見るのみで一般に人口が稀薄である。一方、城崎郡や美方郡の臨海地域では良灣を有してゐる所に必ず小さい乍ら人口の集團分布をみる。豊岡・出石・八鹿・和田山・竹田・村岡・福岡・湯村・竹野・香住・濱坂の如きはかゝる人口集團の核心をなすものである。

因幡や播磨と境する地域は中國山脈中でも最も峻峻な地方であつて、廣範圍に互る無居住地域は人口分布圖を空白にしてゐる。

但馬の人口密度一平方料につき一〇八人(昭和十年)を他の地域と比較してみると近畿地方の三七三人・關東地方の四七四人には遠く及ばず、山地の多い中部地方の一九〇人ともかなり大きい隔りがある。たゞ本州の開拓地域と見做される奥羽地方の一〇五人が但馬と近似した價を示してゐる。

昭和十年の日本内地の密度が一八八人であるから但馬には無居住地域がいかに廣く横はつてゐるかが了解されるだらう。

同じ兵庫縣であつても但馬と背合せをしてゐる播磨では、一平方料の密度が三〇二人で但馬の三倍に近い價を示してゐる。

尤も人口密度は山地や平地等の地形の差を考慮に入れずたゞ單に面積を以て人口數を除した結果であつて、人類が一般に利用し且居住し得る平坦地のみについて計算されたものでない。

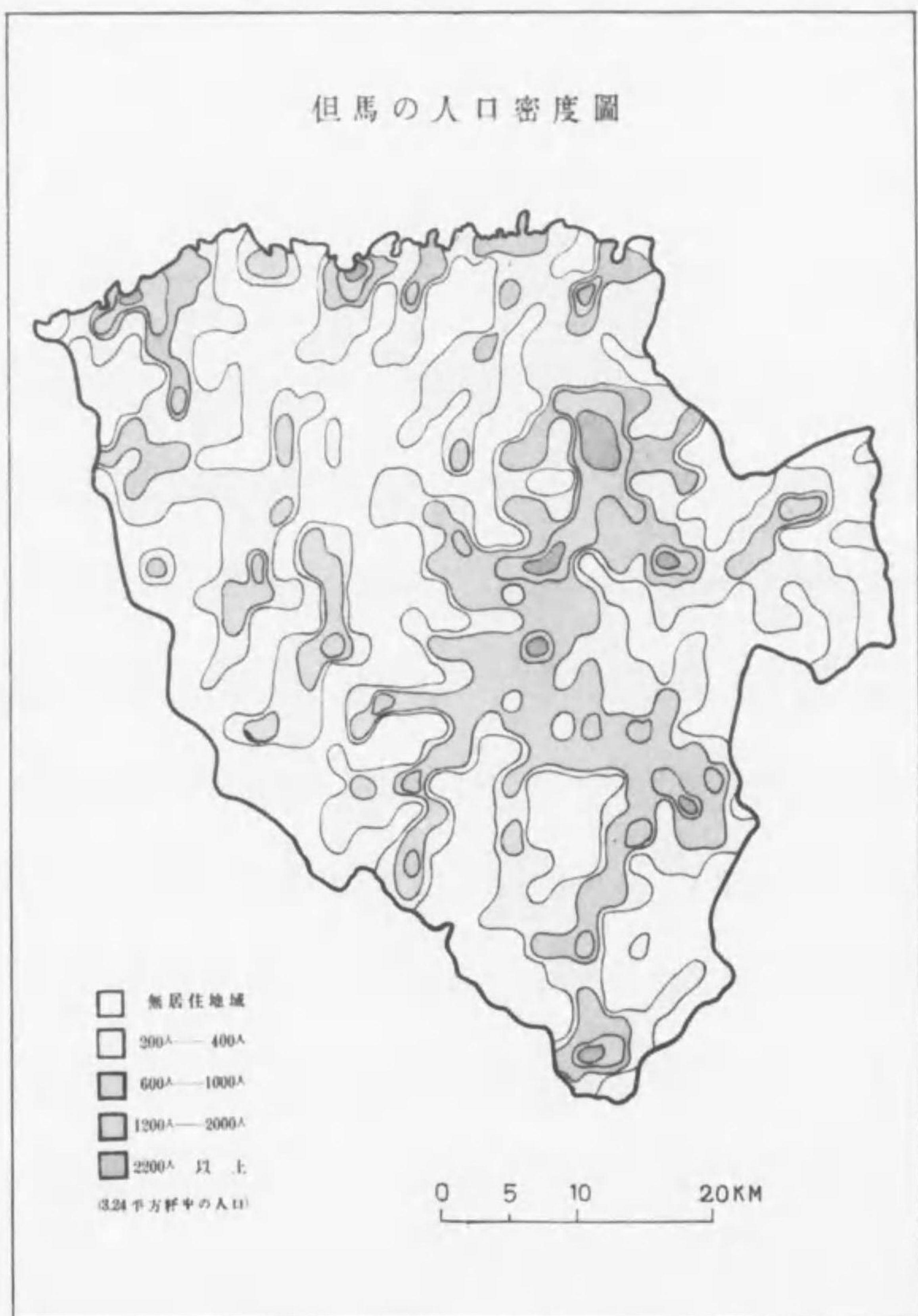
従つて前記の價のみから、直ちに但馬が人口稀薄で可容人口がまだくゞ澤山あるとは考へられない。前述した平地の人口集團地域では但馬も他の地方と殆ど變りがないまど密度が大きいのであつて、豊岡を中心とする盆地の如きは特にさうである。

人口動態

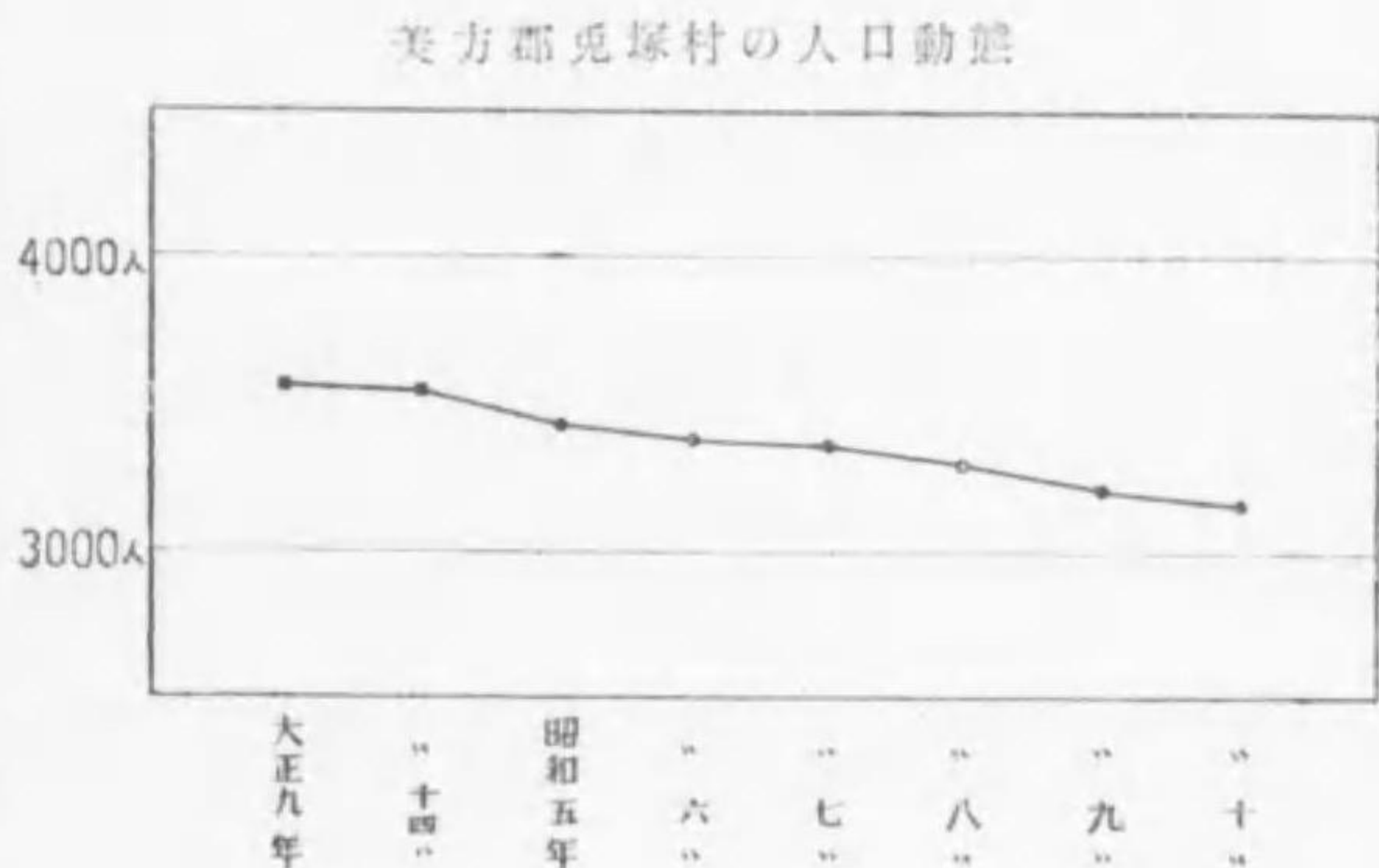
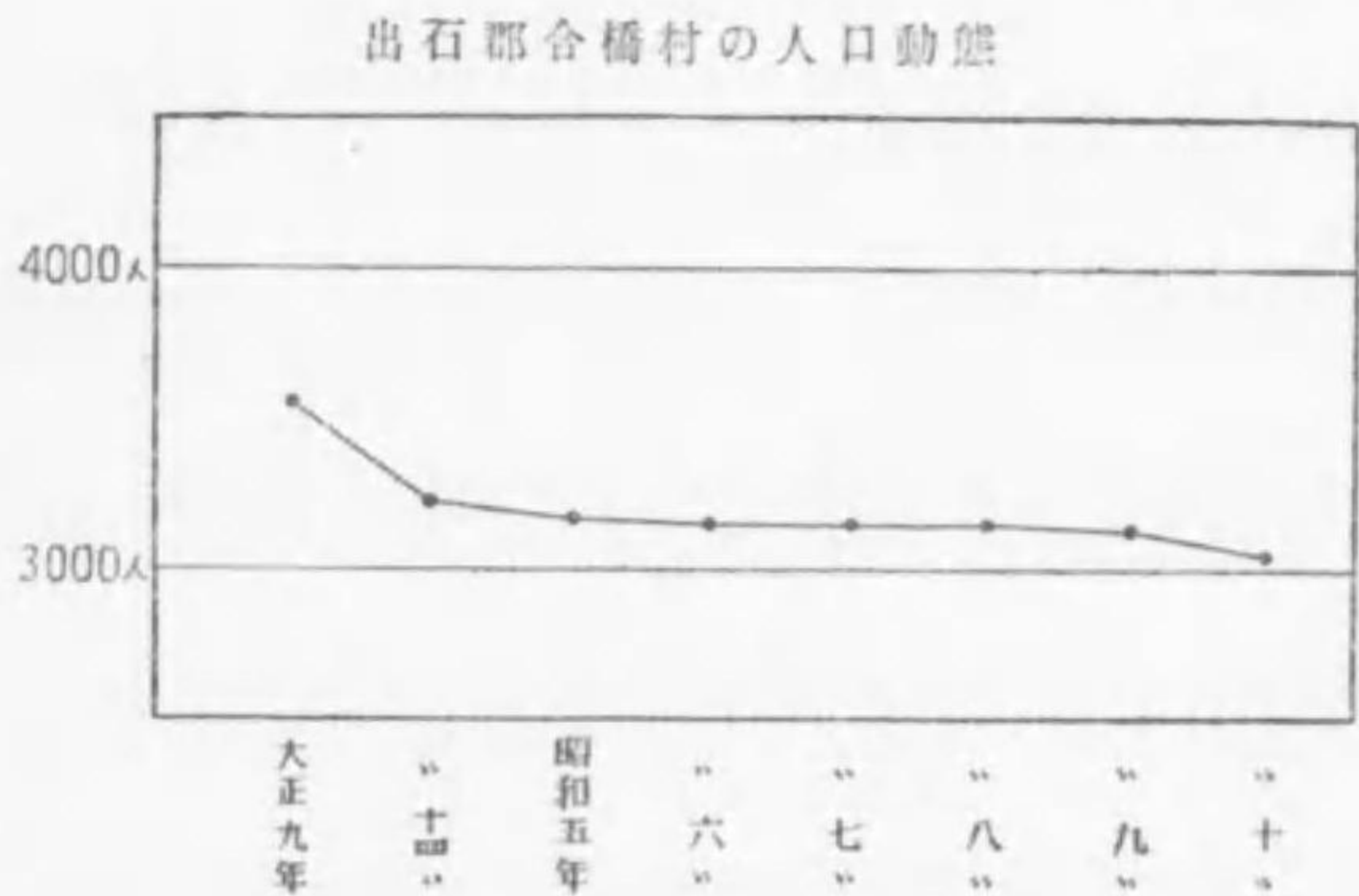
さて人口増加の大きいことは近世日本の著しい現象である。

明治前の内地の人口は約三千萬だつたが今日ではその二倍半も増加してゐる。併し乍らこれは人口總數としてであつて、地方的に區分して考へると、人口は商工の性質をもつた都市に於て急激に増加し、農漁林の地域ほど減少

但馬の人口密度圖



性を多くもち都市の性質にかけてゐるかを知るのである。



同じく但馬と雖も各溪谷の中心聚落とみられる町や村では、前記の十年間に多少の増加を示してゐるものもあるが、米麥養蠶を主とする山地の農村に於てはほとんど例外なしに減少してゐる。

これは言ふ迄もなく人口が土地の生産に對して飽和以上に達したからであ

つて、將來人口の飽和點を高めるやうな何等かの産業が興らない限りこの傾向は如何ともなし難いであらう。

昭和五年の國勢調査の報告によると但馬五郡の女子の實數は十一萬七千五百五十三人で男子の實數は十一萬六千九百八十一人である。其の割合は女子百に對し男子が九九・五であつて、これを同年の内地の男女割合女百に對し男一〇一・〇に比べると著しい差がある。

この理由は出稼・行商・入營・勉學等の目的を以て男子が他地方に單獨移住をなし従つて女子の殘留者が多くなり、男子の數を超過するに至つたのである。此の女子人口の超過と人口總數の減少とは但馬の著しい人口現象である。(昭和十一年の統計では男子の數が女子のそれに比して從來より多くなつてゐる。その比は女百に對し男一〇〇・九で新しい傾向である。)

但馬の季節的出稼を一般に百日稼ぎと言つてゐる。冬季降雪が多くて裏作が殆ど出来ない農村では、勞力が過剰になる。この勞力が餘剰する十二月・

性別人口

百日稼

一月・二月の約百日間を冬季仕事の多い表日本へ季節的な出稼をする。それで此の名が生まれたのである。此の冬季約三ヶ月間の出稼人の数は毎年七〇〇〇人の多きに及ぶ。

出稼人を多く出す地方は美
方郡で就中矢田川の流域の射
添・小代・村岡・兎塚が多く
温泉・八田の町村も少くない。
城崎郡では北西部の山地養
父郡では中部の廣谷・高柳・
關宮等が多い。朝來郡ではそ
の東南部出石郡では東部の丹波・丹後境の諸村に多い。

出稼の目的地は大阪・奈良・和歌山・京都等近畿地方の中央低地及び播磨・丹波の南部であつて、従ふ仕事は凍豆腐・寒天・素麺等の製造をはじめ酒造

出稼者の出向地



りや米搗きにまでも及んでゐる。

特殊なものとしては湯屋男や餅搗き等もある。

寒さに慣れ忍耐力ある但馬の農山村の人々はこれ等の仕事で大いに認められ、次第にその技術に長じて来た。

以上は主として男子の出稼ぎであるが、女子では冬半ヶ年を京都・大阪をはじめとして、西は鳥取に女中・雑役夫として出るものが少くない。美方郡では男子の出稼が幾分減つたので、その収入を償ふ意味で女子の出稼が近來殊に盛んになつた。

圓山川流域特に豊岡盆地や海岸の町村も降雪のため農閑期を生ずるが、出稼は極めて少い。これは前者では杞柳工業に數千の人手が向けられ後者は水産の仕事に従ふためである。

従つて特色ある出稼の現象は、結局人口密度の少い山村の純農村ほど大きいのである。

但馬の地理 終

昭和十三年十二月三十一日印刷
昭和十四年一月五日發行

但馬讀本
〔非賣品〕

版權所有

編著者
印刷所
發行兼
印刷者

兵庫縣城崎郡豐岡町本町

兵庫縣立豐岡中學校
郷土研究会

兵庫縣立豐岡中學校

大阪府西區阿波座中通二丁目二三

合名 交進社印刷所

發行所

兵庫縣城崎郡
豐岡町本町

兵庫縣立豐岡中學校

終

